

Ⅱ：分担研究報告

研究 1

全国の依存症専門医療機関を受診する患者における

市販薬乱用の実態に関する研究

(OTC-drugs survey 2024)

分担研究報告書

全国の依存症専門医療機関を受診する患者における
市販薬乱用の実態に関する研究

分担研究者：嶋根卓也（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

研究協力者：宇佐美貴士（肥前精神医療センター、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

：松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

【研究要旨】

【目的】「濫用等のおそれのある医薬品」の指定成分の範囲の見直しを検討することは喫緊の課題である。本研究では、全国の依存症専門医療機関を受診した市販薬症例の実態を調べることを目的とする。得られた知見は、「濫用等のおそれのある医薬品」の対象となる成分を見直すための基礎資料として供する。

【方法】本研究は、全国の依存症専門医療機関（86 施設）を対象とする悉皆調査である（横断研究デザイン）。各施設の診療録からの調査システムへの転記により、市販薬を主たる薬物とする患者の情報を収集した。対象は、2024 年 4 月 1 日から 5 月 31 日までに、依存症専門医療機関で外来あるいは入院で治療を受けた、アルコール以外の精神作用物質使用による精神および行動の障害（ICD-10：F1x）に該当し、主たる薬物が市販薬と判断される 16 歳以上の患者であった。主たる薬物は「現在の精神科的症状に関して、臨床的に最も関連が深いと思われる薬物」と定義した。なお、本研究の実施にあたり、国立精神・神経医療研究センター倫理委員会の承認を得た（承認番号 A2024-004）。

【結果】全国 29 施設より、計 294 症例が報告された。患者の平均年齢は 29.1 歳（女性 27.1 歳、男性 34.2 歳）、性別は女性 71.4%、男性 27.9%、その他 0.3%であった。市販薬症例が主として乱用していた市販薬の有効成分は、ジヒドロコデイン 162 名（55.1%）が最も多く、デキストロメトルファン 102 名（34.7%）、ジフェンヒドラミン 52 名（17.7%）、ブロモバレリル尿素 45 名（15.3%）、アリルイソプロピルアセチル尿素 21 名（7.1%）、カフェイン製剤 10 名（3.4%）と続いた。ジヒドロコデイン症例のうち 67.9%がエスエスブロン錠、ブロモバレリル尿素症例のうち 77.8%がウット、デキストロメトルファン症例のうち 77.5%がメジコンせき止め Pro、ジフェンヒドラミン症例のうち 86.5%がレスタミンを乱用していた。乱用を始めた心理社会的な背景は、家族関係が最も多く（41.5%）、友人関係（29.9%）と続いた。乱用に期待していた効果は、気持ちの落ち込みが改善する（42.2%）が最も多く、リラックス・落ち着く（31.3%）、気分あがる・テンション上がる（26.5%）、フワフワ・浮遊感（22.4%）、多幸感（13.9%）と続いた。症例全体の 20.4%は、過去 1 年以内に入院を伴う救急搬送エピソードを経験していた。

【結論】

1. 市販薬症例が主として乱用していた市販薬には、「濫用等のおそれのある医薬品」として指定されている成分のみならず、デキストロメトルファン、ジフェンヒドラミン、アリルイソプ

ロピルアセチル尿素、カフェインといった指定されていない未指定成分が含有されていた。

2. 乱用される製品には「ブランド嗜好性」があることが明らかとなった。市販薬症例は、インターネットや友人といった身近な情報源を参考として、乱用する製品を意図的に選択している可能性が考えられた。
 3. 若年の女性が多いという患者背景の特徴がみられた。乱用開始の背景要因（きっかけ）や精神医学的状況（ICD 診断）には、性差や年代差があった。市販薬の乱用問題を抱えた若年者を支援するにあたり、児童・思春期の専門家、学校関係者との連携や協力が不可欠である。
 4. 入院を伴う救急搬送を 1 年以内に経験している患者は、デキストロメトルフアンおよびプロモバレリル尿素を含有する市販薬を乱用しており、年齢が若く、気分障害などの併存診断が多く、SNS などのインターネットを乱用の情報源とし、「幻覚がみえる」という効果を期待しているといった臨床的特徴がみられた。
-

A. 研究目的

近年、処方箋がなくても薬局やドラッグストアで購入できる一般用医薬品（以下、市販薬と表記する）の乱用を繰り返し、依存症となる患者や、過量服薬（オーバードーズ）により救急搬送される患者が急増している。現在、「濫用等のおそれのある医薬品」として 6 成分（エフェドリン、コデイン、ジヒドロコデイン、プソイドエフェドリン、メチルエフェドリン、プロモバレリル尿素）が指定されている。従来、コデイン及びジヒドロコデインは「鎮咳去痰薬に限る」、メチルエフェドリンは「鎮咳去痰薬のうち、内用液剤に限る。」といった除外規定が設けられていたが、近年の乱用状況を踏まえ、令和 5 年 4 月からはこれらの除外規定がなくなった。厚生労働省では「医薬品の販売制度に関する検討会」（令和 5 年度）および「医薬品医療機器制度部会」（令和 6 年度）において「濫用等のおそれのある医薬品」に関する販売制度についてさらなる議論が続けられている。

一方、市販薬を乱用した患者の治療や支援にあたる精神科や救急医療の臨床では、デキストロメトルフアンやジフェンヒドラミンなど「濫用等のおそれのある医薬品」として指定されていない成分（以下、未指定成分と表記する）を含有する市販薬についても乱用・依存・中毒の対象となっていることが報告されている¹⁻⁴。こうした実態を踏まえると、法令による販売規制と医療現場における乱用の実態とは必ずしも一致していない可能性があり、「濫用等のおそ

れのある医薬品」の指定成分の範囲の見直しを検討することは喫緊の課題といえる。

そこで、本研究では、全国の依存症専門医療機関を受診した市販薬症例の実態を調べることを目的とする。得られた知見は、「濫用等のおそれのある医薬品」の対象となる成分を見直すための基礎資料として供する。なお、本研究では、原則として ICD-10 における「乱用」という表記を採用した。ただし、「濫用等のおそれのある医薬品」については法令文書に従って、そのままでの表記とした。

B. 研究方法

1. 研究デザインおよび研究対象者

本研究は、全国の依存症専門医療機関（86 施設）を対象とする悉皆調査である（横断研究デザイン）。各施設の診療録からの調査システムへの転記により、市販薬を主たる薬物とする患者の情報を収集した。対象は、2024 年 4 月 1 日から 5 月 31 日までに、依存症専門医療機関で外来あるいは入院で治療を受けた、アルコール以外の精神作用物質使用による精神および行動の障害（ICD-10：F1x）に該当し、主たる薬物が市販薬と判断される 16 歳以上の患者であった。2024 年 6 月から 7 月末までを調査期間とした。

主たる薬物は「現在の精神科的症状に関して、臨床的に最も関連が深いと思われる薬物」と定義した。調査対象となることを拒否した患者、15 歳以下の患者は除外対象とした。予定する症

例数は約 130 症例とした。積算根拠は、計 86 施設のうち、研究協力が得られる施設を半数の 43 施設、各施設から 3 症例が報告されると見積もり、合計 129 症例とした。

2. 研究のアウトライン

研究開始にあたり、研究実施に関する公告文を国立精神・神経医療研究センター（以下、NCNP と表記）のホームページにて公開し、研究説明書、公告文、調査票などを対象施設に郵送した。研究協力施設は、協力の意向、医療機関名・機関の長の氏名、提供元での手続き等を NCNP にメールで報告した。NCNP は各研究協力施設に、調査システムの URL および QR コード、医療機関名および機関の長の名前を入れた提供元オプトアウト文書をメールで送付した。各研究協力施設は、院内に公告文を掲示するとともに、主治医は診療録（カルテ）をもとに、当該患者の情報（3. 調査項目を参照）について、調査システムを通じて登録した。NCNP はシステムに登録された情報を随時確認し、必要に応じて主治医に問い合わせを行った。

3. 調査項目

（1）乱用に用いた市販薬について（表 A）

主として乱用していた市販薬の有効成分を特定し、具体的な市販薬の販売名を特定するとともに、乱用時に服用していた量（錠数）を尋ねた。精神科医療施設および救急医療機関を対象とした先行研究の報告^{1,5,6}をもとに、市販薬の整理を行ったところ、表 A に示した 7 項目に分類された。販売名については上述の先行研究で 2 症例以上が報告されたものを調査対象とした。ただし、一般的に市販薬は複数の販売名が存在しており、診療録への詳細な記載がない場合も多いことが予測されたため、ブランド名に括弧書きして、販売名をまとめて表記した。例えば、ベンザブロック（S、S プレミアム、L、L プレミアム、IP、IP プレミアム）といった表記である。本報告書では、掲載スペースの都合上、括弧内を省略して表記した。乱用時に服用していた錠数は、5 症例以上の情報がある場合

に平均値を計算した。「30～40 錠」のように範囲が示されている場合は、その平均値（この場合は 35 錠）を錠数とした。

（2）患者情報について

基本属性（年齢、性別、就労状況）、診断情報（ICD-10 における F1 診断）、併存精神障害（ICD-10）、受診の経緯（本人の意向など 10 項目）、乱用を開始した心理的背景（家族関係など 5 項目）、乱用に関する情報源（インターネットなど 8 項目）、乱用に期待していた効果・作用（多幸感など 16 項目）、市販薬の入手方法（実店舗での購入など 8 項目）、過量服薬（オーバードーズ）による救急搬送エピソード、過去 1 ヶ月以内の飲酒頻度（8 項目）、主として飲んでいる酒類（9 項目）。詳細は別添の調査用紙を参照のこと。

4. インフォームドコンセント（倫理的配慮）

対象患者に対する研究説明は文書に用い、口頭同意を取得した。患者本人から同意を取得できない場合は、対象施設内あるいは対象施設のホームページに公告文書を掲載することで、オプトアウトとした。なお、本研究の実施にあたり、国立精神・神経医療研究センター倫理委員会の承認を得た（承認番号 A2024-004）。

5. 統計解析

対象者を性別に分類し、女性群と男性群との差を検証した。性別が不明な患者および性別がその他と回答した患者は該当が少なかったため、分析対象から除外した。次に調査時の患者年齢をもとに 10 代～60 代以上までの 6 群に分類し、群間の差を検証した。最後に、過量服薬（オーバードーズ）による救急搬送のエピソードに基づき、対象者を 4 群に（過去 1 年以内；入院あり、過去 1 年以内；入院なし、過去 1 年以上前、エピソードなし）分類し、群間の差を検証した。救急搬送エピソードが不明の患者については分析対象から除外した。各群間の差は、ピアソンのカイ二乗検定および t 検定にて有意差を検証した。

C. 研究結果

1. 報告施設数および症例数（表 B）

全国 86 施設の依存症専門医療機関のうち、45 施設から研究に関する参加許諾が得られた（協力率 52.3%）。このうち 29 施設より、計 294 症例が報告された。症例報告のあった医療機関および報告症例数を表 B に示した。

2. 乱用されていた市販薬の有効成分と販売名

表 1 および図 1 に市販薬症例が主として乱用していた市販薬の有効成分に関する結果を示した（複数回答可）。ジヒドロコデイン 162 名（55.1%）が最も多く、デキストロメトर्फアン 102 名（34.7%）、ジフェンヒドラミン 52 名（17.7%）、ブロモバレリル尿素 45 名（15.3%）、アリルイソプロピルアセチル尿素 21 名（7.1%）、カフェイン製剤 10 名（3.4%）、コデイン 3 名（1.0%）と続いた。

表 2 に市販薬症例が主として乱用していた市販薬の販売名に関する結果を示した（複数回答可）。ジヒドロコデイン症例の内訳は、エスエスブロン錠（67.9%）が最も多く、パブロンゴールド A（26.5%）、新ルル（6.8%）と続いた。コデイン症例は全員が製品名不明であった。ブロモバレリル尿素症例の内訳は、ウット（77.8%）が最も多く、ナロン錠（31.1%）と続いた。デキストロメトर्फアン症例の内訳は、メジコンせき止め Pro（77.5%）、新コンタック（14.7%）、エスエスブロン液 L（8.8%）、パブロン Sa（4.9%）、エスタック総合感冒（2.0%）と続いた。ジフェンヒドラミン症例の内訳は、レスタミン（86.5%）が最も多く、ドリエル（9.6%）と続いた。アリルイソプロピルアセチル尿素症例の内訳は、イブ（66.7%）が最も多く、ロキソニン S プレミアム（23.8%）、新セデス錠（19.0%）、バファリンプレミアム（19.0%）と続いた。カフェイン製剤症例の内訳は、エスタロンモカ錠（90.0%）が最も多かった。

乱用時の使用量（平均）は、エスエスブロン錠（50.6 錠）、パブロンゴールド A（63.2 錠）、ウット（26.1 錠）、ナロン錠（21.8 錠）、メジコ

ンせき止め Pro（37.9 錠）、新コンタック錠（29.0 錠）、レスタミン（84.6 錠）であった。

表 3 に症例全体の基本属性および飲酒状況に関する結果を示した。平均年齢は 29.1 歳、性別は女性 71.4%、男性 27.9%、その他 0.3%であった。現在の就労状況は、無職 74.1%、有職 23.8%、不明 2.0%であった。過去 1 ヶ月以内の飲酒頻度は、「飲んでいない」が 53.1%と最も多く、不明（29.3%）、毎日（5.8%）、1～2 日（4.1%）と続いた。主として飲んでいる酒類は、不明が最も多かった（39.1%）。酒類情報が明らかとなった患者においては、酎ハイ・サワー（7%以上のストロング系）（10.5%）が最も多く、酎ハイ・サワー（7%未満）（4.4%）、ビール・発泡酒（4.1%）と続いた。

表 4 に依存症専門医療機関への受診経緯および診断状況に関する結果を示した。受診経緯は、他の医療機関からの紹介（49.0%）が最も多く、家族のすすめ（38.4%）、本人の意向（24.1%）と続いた。現在の精神医学的状态は、依存症候群（68.7%）が最も多く、有害な使用（40.1%）、急性中毒（9.2%）と続いた。物質関連障害以外の併存精神障害は、F3: 気分障害が最も多く（36.7%）、F4: 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（26.9%）、F8: 心理的発達の障害（22.4%）、F9: 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害（15.6%）と続いた。

表 5 に市販薬の乱用に関連する項目の結果を示した。乱用を始めた心理社会的な背景は、家族関係（親との不仲、ネグレクト、虐待なども含む）が最も多く（41.5%）、友人関係（いじめ、仲間外れなどを含む）（29.9%）、その他の背景（17.7%）、学校でのトラブル（成績不振、教員とのトラブルなど）（16.7%）、仕事上のトラブル（16.7%）と続いた。乱用に関する情報源は、不明（45.6%）が最も多かったが、インターネット（ツイッター、LINE などの SNS）（33.3%）、インターネット（SNS 以外の動画サイトやホームページなど）（19.4%）、友人・知人（学校・職場以外）（10.9%）と続いた。乱用に期待していた効果・作用は、気持ちの落ち込みが改善する

(42.2%) が最も多く、リラックス・落ち着く (31.3%)、気分あがる・テンション上がる (26.5%)、フワフワ・浮遊感 (22.4%)、多幸感 (13.9%)、集中力が高くなる (12.6%) と続いた。市販薬の入手方法は、薬局・ドラッグストアなどの実店舗で購入が最も多く (70.1%)、インターネットで購入 (国内サイト) (20.7%)、友人・恋人・知人から譲り受けた (7.1%)、インターネットで購入 (海外からの個人輸入) (5.1%) と続いた。救急医療機関への救急搬送の経験は、「過去 1 年以内にはないが、過去 1 年以上前にあり」が最も多く (31.6%)、一度もない (27.9%)、入院を伴うエピソードが過去 1 年以内にある (20.4%) と続いた。

3. 性別にみた市販薬症例の特徴

表 6~9、図 2 に結果を示した。主として乱用していた市販薬の有効成分について、男女間で有意差は認められなかった (表 6)。女性患者の平均年齢は 27.1 歳であり、男性患者 (34.2 歳) に比べて有意に低かった。現在の就労状況、飲酒状況については男女間で有意差が認められなかった (表 7)。

依存症専門医療機関への受診経緯は、学校からの紹介が女性において有意に高く (女性 4.8%、男性 0.0%)、依存症回復施設 (ダルクなど) からの紹介は、男性において有意に高かった (女性 0.5%、男性 12.2%)。現在の精神医学的状態は、「有害な使用」の割合は、女性が有意に高く (女性 46.2%、男性 25.6%)、「依存症候群」 (女性 62.4%、男性 84.1%) および「せん妄を伴う離脱状態」 (女性 0.0%、男性 2.4%) の割合は男性で有意に高かった。物質関連障害以外の併存精神障害は、「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」 (女性 31.4%、男性 14.6%) および「知的障害」 (女性 13.3%、男性 4.9%) の割合が女性において有意に高かった (表 8)。

乱用を始めた心理社会的な背景は、女性においては「家族関係」 (女性 45.2%、男性 31.7%) および「友人関係」 (女性 33.8%、男性 20.7%) が男性に比べて有意に高く、男性においては「仕事上のトラブル」 (女性 11.9%、男性 28.0%)

が女性に比べて有意に高かった。乱用に関する情報源は男女差がみられなかった。乱用に期待していた効果・作用は、「集中力が高くなる」 (女性 10.0%、男性 19.5%) が男性において有意に高かったが、他の項目については、男女間で有意差が認められなかった。市販薬の入手方法は、女性においては「インターネットで購入 (国内サイト)」 (女性 24.3%、男性 12.2%) の割合が男性に比べて有意に高く、男性においては「万引き」の割合が女性に比べて有意に高かった (女性 1.9%、男性 8.5%)。救急医療機関への救急搬送の経験は、男女間で有意差が認められなかった (表 9)。

4. 年代別にみた市販薬症例の特徴

表 10~13 に結果を示した。主として乱用していた市販薬の有効成分は、年代が上がるにつれ、プロモバレリル尿素の比率が有意に増加する一方で、年代が下がるにつれ、デキストロメトर्फアンの比率が有意に増加していた。その他の有効成分については年代間で有意差が認められなかった (表 10)。年代と性別との間には有意差がみられ、10 代の患者の 88.9%、20 代の患者の 76.4% は女性であった。現在の就労状況、飲酒状況については年代間で有意差が認められなかった (表 11)。

依存症専門医療機関への受診経緯は、10 代では「家族の勧め」の割合が高く、60 代以上では「非自発的入院から」の割合が高く、それぞれ有意差が認められた。現在の精神医学的状態は、10 代では「有害な使用」の割合が高い一方で、「依存症候群」の割合は低く、それぞれ有意差が認められた。物質関連障害以外の併存精神障害は、10 代において「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」「心理的発達の障害」の割合が有意に高かった (表 12)。

乱用をはじめた心理社会的な背景は、10 代においては「友人関係」「学校でのトラブル」の割合が有意に高く、「仕事上のトラブル」の割合が有意に低かった。乱用に関する情報源は、年代間に有意差を認めなかった。乱用に期待していた効果・作用は、20 代において「集中力が高く

なる」の割合が高く、40代、50代において「リラックス・落ち着く」の割合が高く、60代以上においては「身体の痛みが和らぐ」の割合が高く、それぞれ年代間に有意差を認めた。市販薬の入手方法は、20代において「インターネットで購入(国内サイト)」、40代において「万引き」、60代以上において「その他の方法」の割合が高く、それぞれ年代間に有意差を認めた。救急医療機関への救急搬送の経験は、10代、20代において「過去1年以内にあり(入院を伴うエピソード)」の割合が高く、30代、40代において「過去1年以内にはないが、過去1年以上前にあり」の割合が高く、それぞれ有意差を認めた(表13)。

5. 救急搬送別にみた市販薬症例の特徴

表14～17に結果を示した。主として乱用していた市販薬の有効成分は、入院を伴うエピソードが過去1年以内にある群において、ブロモバレリル尿素およびデキストロメトルフアンが該当する割合が有意に高かった(表14)。入院を伴うエピソードが過去1年以内にある群における平均年齢は24.4歳であり、他群に比べて有意に低かった。患者の性別、就労状況、飲酒状況と救急搬送エピソードとの間には有意差が認めなかった(表15)。

依存症専門医療機関への受診経緯は、救急搬送エピソードがない群において、「本人の意向」に該当する患者が有意に高かった。現在の精神医学的状態については、入院を伴うエピソードが過去1年以内にある群において「急性中毒」と診断される割合が他群に比べて有意に高かった。物質関連障害以外の併存精神障害に関しては、入院を伴うエピソードが過去1年以内にある群において「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」「心理的発達の障害」と診断される割合が他群に比べて有意に高かった(表16)。

乱用をはじめた心理社会的な背景と救急搬送エピソードとの間には有意な関連は認められなかった。乱用に関する情報源は、入院を伴うエピソードが過去1年以内にある群において

インターネット(ツイッター、LINEなどのSNS)に該当する割合が有意に高かった。乱用に期待していた効果・作用は、入院を伴うエピソードが過去1年以内にある群において「幻覚がみえる」に該当する割合が有意に高かった。市販薬の入手方法は、入院を伴うエピソードが過去1年以内にある群において「薬局・ドラッグストアなどの実店舗で購入」「インターネットで購入(国内サイト)」に該当する割合が有意に高かった(表17)。

D. 考察

1. 乱用対象となる市販薬の有効成分

本研究は、全国の依存症専門医療機関を対象とする市販薬を主たる薬物とする症例(以下、市販薬症例と表記)に関する初めての全国調査であった。

市販薬症例が主として乱用していた市販薬には、「濫用等のおそれのある医薬品」として指定されている成分だけではなく、デキストロメトルフアン、ジフェンヒドラミン、アリルイソプロピルアセチル尿素、カフェインといった指定されていない有効成分(以下、未指定成分と表記)が含有されていたことが明らかとなった。

デキストロメトルフアンは、世界中で広く使われている鎮咳薬であるが、潜在的に乱用や依存の可能性があることが報告されている⁷。乱用により、多幸感、幻覚、解離症状を生じることが知られている⁸。米国では、高用量のデキストロメトルフアンを摂取し、暴行、自殺、殺人に至った症例が報告されている⁹。日本国内においても、デキストロメトルフアンの乱用による意識障害、横紋筋融解症、セロトニン症候群を発症した急性中毒や、死亡症例が報告されている^{10,11}。国内の精神科医療施設を対象とする全国調査によれば、2018年から2022年にかけて、デキストロメトルフアンを主たる薬物とする依存症例が有意に増加していることが報告されている。

ジフェンヒドラミンは、第一世代の抗ヒスタミン薬であり、アレルギー治療薬や睡眠補助薬として使われている。高用量の使用により、さ

まざまな中枢症状、末梢症状を引き起こすことが知られている。中枢症状としては、覚醒度の低下、幻覚、せん妄、痙攣の可能性があり、末梢症状としては、粘膜の乾燥、尿閉、散瞳、頻脈の可能性もある⁸。重篤例では、致死的な心室性不整脈を引き起こす可能性が指摘されている¹²。日本国内でもジフェンヒドラミンによる急性中毒症例や死亡症例が報告されている¹³⁻¹⁵。

アリルイソプロピルアセチル尿素は、プロモバレルil尿素と同じウレイド系鎮静薬である。血小板減少性紫斑病などの副作用¹⁶が報告されたことから、多くの国では医薬品としての使用が中止されているが、日本国内では多くの市販薬、特に解熱鎮痛薬に含有されている成分である。医療現場向けに市販薬情報を発信しているクスリ早見帖プロジェクトによれば、現在国内で販売されている市販薬のうち、有効成分にアリルイソプロピルアセチル尿素を含む市販薬は計 94 製品に該当するという¹⁷。アリルイソプロピルアセチル尿素の乱用に伴う健康影響に関する文献情報は非常に限られている。国内においては、イブプロフェン含有の解熱鎮痛薬の意図的過量摂取による中毒症例に関する報告で解熱鎮痛薬の配合剤として取り上げられた報告や、急性プロモバレルil尿素中毒に関する症例報告の中で、鎮静薬の配合成分の一つとして取り上げられている^{18,19}。

カフェインは、コーヒーやお茶などの食品、エナジードリンク、風邪薬などにも含有されているが、急性中毒症例の多くは、眠気防止薬として販売されている錠剤型のカフェイン製剤による過量服薬が原因となっている²⁰。一般的なカフェイン中毒の症状としては、不安、興奮、落ち着きのなさ、不眠症、胃腸障害、震え、精神運動興奮などである⁸。

なお、未指定成分の乱用、依存、中毒に関する文献の詳細は、本研究報告書の富山分担（濫用等のおそれのある医薬品の追加候補となる薬剤に関する文献的調査）を参照のこと。

2. 乱用対象となる市販薬の販売名

本研究では乱用の対象となる市販薬の販売

名を特定した。乱用される製品には「ブランド嗜好性」があることが明らかとなった。ブランド嗜好性とは、マーケティング用語で、消費者が同じ製品やサービスのカテゴリー内で、あるブランドを他のブランドよりも一貫して好む状況を表す言葉である。例えば、デキストロメトルファンを有効成分に含む市販薬は 51 種類が販売されているが¹⁷、デキストロメトルファン症例として報告された患者のうち、78%がメジコンせき止め Pro を乱用していた。また、ジフェンヒドラミンを有効成分に含む市販薬は 35 種類が販売されているが¹⁷、ジフェンヒドラミン症例として報告された患者のうち、87%がレスタミンを乱用していた。

「ブランド嗜好性」は、インターネットでの情報が影響を与えている可能性が考えられる。市販薬のオーバードーズで救急搬送された急性中毒患者を対象とする先行研究によれば、市販薬の乱用に関する主たる情報源は、インターネットあるいは友人であることが報告されている⁴。本研究においてもインターネット、特にツイッター、LINE などの SNS を情報源とする患者が最も多かった。市販薬症例は、インターネットや友人といった身近な情報源を参考として、乱用する製品を意図的に選択している可能性が考えられた。

3. 市販薬症例の特徴と支援

市販薬症例の基本属性は、これまでの先行研究と同様に、10～20 代の若年者、女性が多いという傾向がみられた。乱用の背後には、何らかの「生きづらさ」が関係していることはこれまでの指摘とも重なるが、本研究では性別によって生きづらさの内容に差があることが示された。例えば、女性患者においては、家族関係（親との不仲、ネグレクト、虐待など）や、友人関係（いじめ、仲間外れなど）をきっかけとする症例が多かった。一方、男性患者においては、仕事上のトラブルがきっかけとなっている症例が多かった。こうした心理社会的な背景に性差があることに着目しながら、治療や支援を進めることは重要である。

精神医学的な観点では、女性では有害な使用（F1x.1）の診断が多い一方で、男性では依存症候群（F1x.2）が多いといった差異がみられた。また、併存精神障害に関しては、神経症性障害（F4）、および知的障害（F7）の併存率が女性において有意に高いという結果も得られている。物質使用障害の重症度は女性に比べて男性の方が重篤であり、従来の依存症モデルの治療アプローチに比較的乗りやすい可能性を示唆している。一方、女性においては物質使用障害に対する支援だけではなく、併存する他の精神障害に対する支援も合わせて行うことが重要となり、従来の依存症治療だけでは対応が困難な場合が多いことを示唆している。

年代別の分析では、10代の患者の特徴が浮かび上がった。例えば、10代の患者においては、神経症性障害（F4）の診断が多いことに加え、心理的発達の障害（F8）の併存障害も有意に高いことが示されていることから、児童精神科医や小児科医など児童・思春期の専門家との連携、協力は不可欠と考えられる。また、乱用を始めたきっかけが、友人関係に起因するトラブルが多いことに加え、成績不振、教員とのトラブルなど学校生活に起因することが多いという特徴もみられた。養護教諭やスクールカウンセラーなど、学校において子どもたちのメンタルヘルス支援を行う教員と依存症専門医療機関との連携も検討すべき重要な課題といえる。

救急搬送のエピソード別の分析では、入院を伴う救急搬送を直近1年以内に経験している患者は、デキストロメトルファンおよびプロモバレリル尿素を含有する市販薬を乱用していること、年齢が若いこと、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）、心理的発達の障害（F8）の併存診断が多いこと、SNSなどのインターネットを乱用の情報源としていること、「幻覚がみえる」という効果を期待しているといった臨床的特徴がみられた。

オーバードーズなどにより救急搬送された後のメンタルヘルス支援については、重要であることを認識されてはいるものの、依存症の専門家が必ずしも近くいないことや、メンタルヘ

ルスに関する介入をする時間が限られているといった課題も散見されている。近年では、SNSを活用したメンタルヘルス相談を実施している自治体やNPO団体が増えてきた²¹。SNSを介してオーバードーズの情報を収集している若者に対しては、電話相談よりもSNSを介した相談の方が気軽にアクセスしやすい可能性がある。救急搬送後に、SNS相談に関する情報（例えば、啓発カードのようなもの）を渡すことから支援を始めていくことはできないだろうか。

E. 結論

依存症専門医療機関を対象とする全国調査を実施し、全国29施設から計294症例が報告され、以下の結論を得た。

1. 市販薬症例が主として乱用していた市販薬には、「濫用等のおそれのある医薬品」として指定されている成分のみならず、デキストロメトルファン、ジフェンヒドラミン、アリルイソプロピルアセチル尿素、カフェインといった指定されていない未指定成分が含有されていた。
2. 乱用される製品には「ブランド嗜好性」があることが明らかとなった。市販薬症例は、インターネットや友人といった身近な情報源を参考として、乱用する製品を意図的に選択している可能性が考えられた。
3. 若年の女性が多いという患者背景の特徴がみられた。乱用開始の背景要因（きっかけ）や精神医学的状況（ICD診断）には、性差や年代差があった。市販薬の乱用問題を抱えた若年者を支援するにあたり、児童・思春期の専門家、学校関係者との連携や協力が不可欠である。
4. 入院を伴う救急搬送を1年以内に経験している患者は、デキストロメトルファンおよびプロモバレリル尿素を含有する市販薬を乱用しており、年齢が若く、気分障害などの併存診断が多く、SNSなどのインターネットを乱用の情報源とし、「幻覚がみえる」という効果を期待しているといった臨

床的特徴がみられた。

【謝辞】本研究にご協力いただきました全国の依存症専門医療機関のみなさまに深く感謝いたします。

F. 参考文献

1. 松本俊彦, ほか: 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査. 令和 4 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」総括・分担研究報告書, pp77-140, 2023.
2. 上條吉人, ほか: 救急医療における薬物関連中毒症例に関する実態調査: 一般用医薬品を中心に、厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」令和 4 年度総括・分担研究報告書. pp141-158, 2023.
3. Usami T, Okita K, Shimane T, Matsumoto T. Comparison of patients with benzodiazepine receptor agonist-related psychiatric disorders and over-the-counter drug-related psychiatric disorders before and after the COVID-19 pandemic: Changes in psychosocial characteristics and types of abused drugs. *Neuropsychopharmacol Rep.* 2024;44(2):437-446.
4. Kyan R, Kamijo Y, Kohara S, et al. Prospective multicenter study of the epidemiological features of emergency patients with overdose of over-the-counter drugs in Japan [published correction appears in *PCN Rep.* 2024 Nov 07;3(4):e70034.
5. 松本俊彦, 宇佐美貴士, 船田大輔, 村上真紀, 沖田恭治, 谷淵由布子, 山本泰輔, 山口重樹: 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査. 令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究 (研究代表者: 嶋根卓也)」総括・分担研究報告書, pp41-104, 2021.
6. 松本俊彦, 宇佐美貴士, 船田大輔, 村上真紀, 谷淵由布子: 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査. 平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状態等のモニタリング調査と薬物依存者・家族に対する回復支援に関する研究 (研究代表者: 嶋根卓也)」総括・分担研究報告書, pp75-141, 2019.
7. Mutschler J, Koopmann A, Grosshans M, Hermann D, Mann K, Kiefer F. Dextromethorphan withdrawal and dependence syndrome. *Dtsch Arztebl Int.* 2010;107(30):537-540.
8. 上條吉人: 臨床中毒学第 2 版 (医学書院) 2023.
9. Logan BK, Yeakel JK, Goldfogel G, Frost MP, Sandstrom G, Wickham DJ. Dextromethorphan abuse leading to assault, suicide, or homicide. *J Forensic Sci.* 2012;57(5):1388-1394.
10. 浅沼翼, 他: 日臨救急医学会誌 23(3):400.2020.
11. 西口美紀, 他: 日法医誌 74(1):88.2020.
12. Kuo CC, Huang RC, Lou BS. Inhibition of Na(+) current by diphenhydramine and other diphenyl compounds: molecular determinants of selective binding to the inactivated channels. *Mol Pharmacol.* 2000;57(1):135-143.
13. 徳本和哉, 他: 日病薬師会誌, 2012;48(7):873-6.
14. 鈴木恵輔, 他: 日臨救急医学会誌. 2020;23(4):611-5.

15. 鈴木 恵輔, 他: 日救急医会関東誌. 2021;42(2):35-8.
 16. ACKROYD JF. Purpura due to hypersensitivity to sedormid (allyl-isopropyl-acetyl-carbamide). Proc R Soc Med. 1953;46(4):261-263.
 17. PLAMED plus, クスリ早見帖プロジェクト
<https://www.plamedplus.co.jp/development/>
 18. 今田 優子, 波多野 弥生, 黒川 友里亜, 三瀬 雅史, 高野 博徳, 遠藤 容子, 吉岡 敏: OTC 配合剤の過量摂取における配合成分と症状の関係 イブプロフェン含有解熱鎮痛薬を例として、中毒研究 35 (4) :345-350, 2022.
 19. 渡辺 圭, 近藤 匡慶, 安 武夫, 久野 将宗, 矢島 領, 長野 植彦, 菅谷 量俊, 高瀬 久光: 市販薬ウツ錠の大量服用により長期血中残存を認めた急性プロモバレリル尿素中毒の 1 例、日本臨床救急医学会雑誌 27 (4) : 552-555, 2024.
 20. Kamijo Y, Takai M, Fujita Y, Usui K. A Retrospective Study on the Epidemiological and Clinical Features of Emergency Patients with Large or Massive Consumption of Caffeinated Supplements or Energy Drinks in Japan. Intern Med. 2018 Aug 1;57(15):2141-2146.
 21. 厚生労働省: まもろうよこころ、SNS相談、
<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/soudan/sns/>
- G. 研究発表
1. 論文発表 (原著・総説・書籍)
 - 1) Usami T, Okita K, Shimane T, Matsumoto T. Comparison of patients with benzodiazepine receptor agonist-related psychiatric disorders and over-the-counter drug-related psychiatric disorders before and after the COVID-19 pandemic: Changes in psychosocial characteristics and types of abused drugs. Neuropsychopharmacol Rep 44(2):437-446. 2024.
 - 2) Mizuno S, Shimane T, Inoura S, Matsumoto T: Psychosocial characteristics of the general population who habitually use hypnotics: Results from a national survey on drug use among the Japanese. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports, 9;3(3):e208 2024.
 - 3) Mizuno S, Inoura S, Matsumoto T, Shimane T: Characteristics of drinking habits of people who overdose on over-the-counter drugs: Insights from a nationwide Japanese survey. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports, 2024.
 - 4) Kyan R, Kamijo Y, Kohara S, Takai M, Shimane T, Matsumoto T, Fukushima H, Narumi S, Chiba T, Sera T, Otani N, Iwasaki Y. Prospective multicenter study of the epidemiological features of emergency patients with overdose of over-the-counter drugs in Japan. PCN Rep. 15;3(3):e225. 2024.
 - 5) Omiya S, Shimane T, Takagishi Y, et al. Gender differences in the effect of trust on substance abuse severity among incarcerated stimulant offenders in Japan. Neuropsychopharmacology Reports 45(1): e12517
 - 6) 喜多村 真紀, 嶋根 卓也, 高橋 哲, 小林 美智子, 大伴 真理恵, 鈴木 愛弓, 松本 俊彦: 薬物使用のトリガーとしての月経前症状を持つ女性の特徴—覚醒剤使用のメリット・デメリットに焦点を当てて—. 女性心身医学 28(3): 349-356, 2024.
 - 7) 高橋 哲, 鈴木 愛弓, 近藤 あゆみ, 服部 真人, 小林 美智子, 喜多村 真紀, 嶋根 卓也. 覚醒剤事犯受刑者における自殺念慮の生涯経験率とその関連要因の検討. 自殺予

- 防と危機介入 44(1): 82-89, 2024.
- 8) 助友裕子、市瀬雄一、細川佳能、大浦麻絵、嶋根卓也、ほか. 高等学校 2 年生のがんリスク認知の関連要因：がん対策推進に資するがん教育ロジックモデルに基づく全国調査データの解析、日本公衆衛生学会雑誌 2025 (in press)
 - 9) 嶋根卓也：保健室から考えるオーバードーズをする子への対応. 心とからだの健康 28(9)：18-23, 2024.
 - 10) 嶋根卓也：薬物使用－市販薬の過剰服薬（オーバードーズ）. 小児内科 56(9)：1409-1412, 2024.
 - 11) 嶋根卓也：市販薬のオーバードーズの理解と薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会雑誌 60(10)：1072-1076, 2024.
 - 12) 嶋根卓也：市販薬乱用の理解とゲートキーパーとしての薬剤師. ファルマシア 60(11)：1045-1049, 2024.
2. 学会発表
- 1) 嶋根卓也：「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用・依存を例として-. 第 127 回日本小児学会学術集会，モーニング実践講座，2024.4.20.
 - 2) 嶋根卓也：「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用・依存を例として-. 日本社会薬学会 社会薬学フォーラム 2024, 2024.4.28.
 - 3) 嶋根卓也：「濫用等のおそれのある医薬品」の販売制度の現状と課題. シンポジウム「市販薬過量服用の現状とその対策」第 8 回日本臨床・分析中毒学会 総会・学術集会，神奈川，2024.5.10.
 - 4) 嶋根卓也：(ランチョンセミナー)「助けて」が言えない子どもたち：急増する市販薬のオーバードーズの背景と対応を考える. 第 8 回日本臨床・分析中毒学会 総会・学術集会，神奈川，2024.5.10.
 - 5) Shimane T. Children Who Can't Say "Help": The Increasing of Over-the-Counter Drug Overdose in Japan. 2024 Drug Treatment Systems and Recidivism Prevention Symposium, Taiwan (Jiayi), 2024.5.30.
 - 6) Shimane T. Children Who Can't Say "Help": The Increasing of Over-the-Counter Drug Overdose in Japan. Bali Psychiatric Center, Minister of Health and Welfare, Taiwan (Bali), 2024.5.31.
 - 7) 嶋根卓也：(シンポジウム) 大麻乱用による健康被害と断るスキル：有効な、有効ではない予防教育. 第 57 回日本薬剤師会学術大会，埼玉，2024.9.23.
 - 8) 水野聡美，堤史織，片山宗紀，新田慎一郎，大野昂紀，安間尚徳，塩澤拓亮，嶋根卓也，松本俊彦，高野歩：(シンポジウム) ハーム・リダクションに基づく支援の導入・普及に関する研究：グループインタビュー調査の実施背景と研究方法の説明. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会，東京，2024.9.19.
 - 9) 堤史織，片山宗紀，新田慎一郎，水野聡美，大野昂紀，塩澤拓亮，安間尚徳，嶋根卓也，松本俊彦：(シンポジウム) アルコール・薬物使用問題の経験がある当事者の視点からみるハーム・リダクションに基づく支援において重要な要素. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会，東京，2024.9.19.
 - 10) 片山宗紀，堤史織，新田慎一郎，水野聡美，大野昂紀，塩澤拓亮，安間尚徳，嶋根卓也，松本俊彦，高野歩：(シンポジウム) “大きな理想をもって、本当のハーム・リダクションを目指して”－アルコール・薬物の家族の視点から. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会，東京，2024.9.19.
 - 11) 新田慎一郎，水野聡美，堤史織，片山宗紀，大野昂紀，塩澤拓亮，安間尚徳，嶋根卓也，松本俊彦，高野歩：(シンポジウム) “支援者の立場から考える”ハーム・リダクションに基づく支援における重要な

- 要素. 2024 年度 アルコール・薬物依存
関連学会 合同学術総会, 東京,
2024.9.19.
- 12) 嶋根卓也, 片山宗紀, 榊原幹夫: (シンポジウム) 市販薬の乱用・依存とゲートキーパーとしての薬剤師. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
- 13) 新田慎一郎, 嶋根卓也: (シンポジウム) 覚醒剤依存症のゲイ・バイセクシュアル男性における支援ニーズ. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 14) 嶋根卓也: (シンポジウム 39) 市販薬のオーバードーズとさりげない「おせっかい」-ゲートキーパーとしての薬剤師-. 第 34 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2024.11.3.
- 15) 嶋根卓也, 猪浦智史, 喜多村真紀, 松本俊彦: 「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用・依存を例として-. 第 127 回日本小児科学会学術集会, 九州, 2024.4.1.
- 16) 引土絵未, 嶋根卓也, 小高真美, 秋元恵一郎, 加藤隆, 大吉努, 山村りつ, 吉野美樹: 依存症者の就労支援に関する研究: ハローワークを対象とした依存症者の就労に関する実態および意識調査. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 17) 喜多村真紀, 高田雅弘, 江藤不二子, 首藤誠, 嶋根卓也: X (旧 Twitter) 上の『OD レポ』解析を通じた市販薬過量服薬の現状把握と予防啓発の検討. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 18) 喜多村真紀, 嶋根卓也, 水野聡美, 松本俊彦: 「トー横キッズ」における物質使用関連問題と支援に関する研究. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 19) 水野聡美, 猪浦智史, 松本俊彦, 嶋根卓也: 市販薬乱用と飲酒の関係: 薬物使用に関する全国住民調査の結果から. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 20) Tooru Nemoto, Mariko Iwamoto, Emiko Kamitani, Min Zhengv, Takuya Shimane: Marijuana and Other Substance Use Behaviors among Japanese Nationals Temporarily Staying in the U.S. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 21) 嶋根卓也, 水野聡美, 猪浦智史, 邱冬梅: 一般住民における市販薬乱用の経験率の推計: 薬物使用に関する全国住民調査 2023 より. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 22) Takuma Ofuchi, Takuya Shimane, Toshihiko Matsumoto: The Role of Spirituality in Methamphetamine Abstinence Among Japanese Participants in 12-Step and DARC Programs. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)
該当なし

表A. 調査対象とした市販薬に含有される有効成分および販売名

1. ジヒドロコデイン*
エスエスブロン錠（新エスエスブロン錠エース）
パブロンゴールドA（パブロンSゴールドW）
新トニン咳止め液
新ルル（A錠s、Aゴールドs）、ルルアタック（EX、EXプレミアム、NX,NXプレミアム、CX、CXプレミアム、IBエース）
ベンザブロック（S、Sプレミアム、L、Lプレミアム、IP、IPプレミアム）
2. コデイン*
アネトン（アネトンせき止め液、アネトンせき止め）
3. プロモバレリル尿素*
ウット
ナロン錠（ナロンエースT）
4. デキストロメトルファン
メジコンせき止めPro
新コンタック（新コンタックかぜE X持続性、新コンタックかぜ総合など）
エスエスブロン液L
パブロンSα（錠、顆粒、微粒）
エスタック総合感冒
ベンザエースA
パイロンPL錠ゴールド
5. ジフェンヒドラミン
レスタミン（レスタミンコーワ糖衣錠など）
ドリエル（ドリエルEX）
トラベルミン
ドリーミンZ
6. アリルイソプロピルアセチル尿素
イブ（イブA錠、イブA錠EX、イブクイック頭痛薬、イブクイック頭痛薬DX）
新セデス錠（セデス・ハイ、ハイプロテクト、ハイG、V、キュア）
バファリンプレミアム
ロキソニンSプレミアム
ディパシオIPa
ノーシンピュア
リコリプラスエースa
7. カフェイン製剤
エスタロンモカ錠（エスタロンモカ12）

*濫用等のおそれのある医薬品に指定されている成分

表B. 症例報告のあった医療機関および報告症例数

医療機関施設名	報告症例数
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院	49
医療法人コミュニテ 風と虹 のぞえ総合心療病院	38
大阪府立病院機構 大阪精神医療センター	35
茨城県立こころの医療センター	28
医療法人 十全会 聖明病院	19
医療法人社団 光風会 三光病院	16
昭和大学附属烏山病院	15
医療法人 東布施辻本クリニック 東布施野田クリニック	14
医療法人 東北会 東北会病院	11
西山クリニック	11
医療法人コミュニテ風と虹 のぞえの丘病院	7
滋賀県立精神医療センター	7
医療法人 優なぎ会 雁の巣病院	6
長野県立こころの医療センター駒ヶ根	5
医療法人 資生会 千歳病院	4
社会医療法人 明和会医療福祉センター 渡辺病院	4
独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター	4
うえむらメンタルサポート診療所	3
医療法人 藤井クリニック	3
医療法人 杏野会 各務原病院	2
医療法人社団 飯盛会 倉光病院	2
京都府立洛南病院	2
独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター	2
独立行政法人国立病院機構 榊原病院	2
医療法人 寛容会 森口病院	1
医療法人 香流会 紘仁病院	1
医療法人 正雄会 呉みどりヶ丘病院	1
医療法人社団 翠会 行橋記念病院	1
石川県立こころの病院	1

表1. 市販薬症例が主として乱用していた市販薬の有効成分（n=294）

有効成分名	n	%
ジヒドロコデイン	162	55.1%
デキストロメトルフアン	102	34.7%
ジフェンヒドラミン	52	17.7%
ブロモバレリル尿素	45	15.3%
その他の市販薬	23	7.8%
アリルイソプロピルアセチル尿素	21	7.1%
有効成分不明	19	6.5%
カフェイン製剤（カフェイン単剤）	10	3.4%
コデイン	3	1.0%

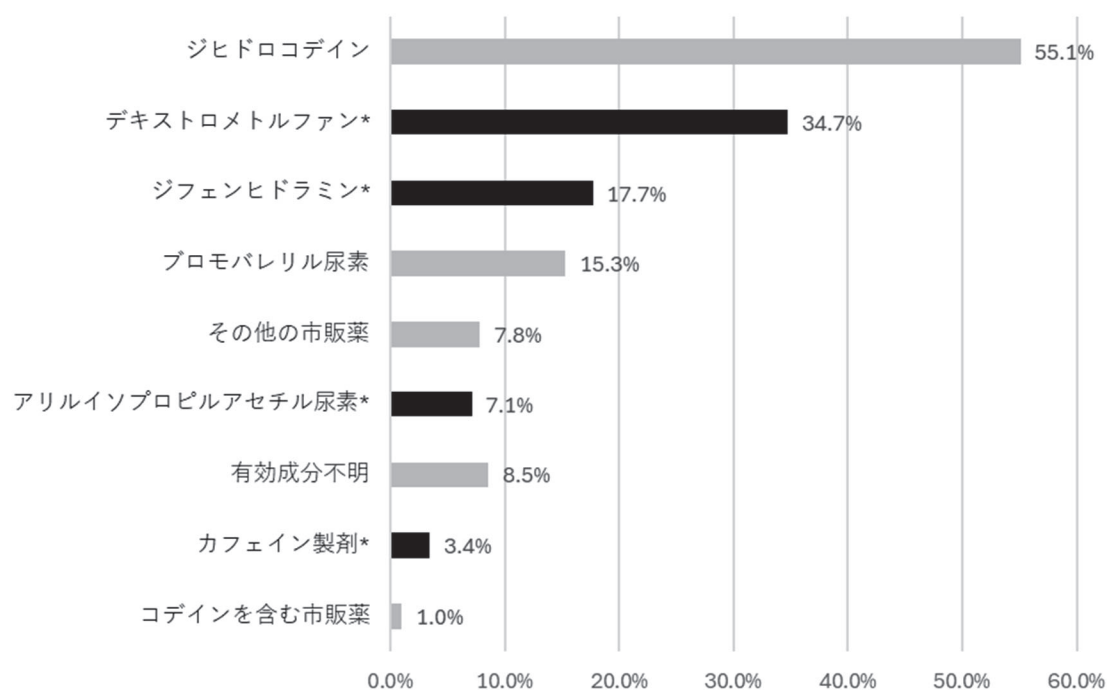


図 1. 市販薬症例が主として乱用していた市販薬の有効成分

*濫用等のおそれのある医薬品に指定されている成分

表2. 市販薬の製品ごとの症例数および1回あたりの使用量

有効成分および販売名	n	%	1回の使用量 平均 (min-max)
ジヒドロコデイン* (n=162)			
エスエスブロン錠 (新エスエスブロン錠エース)	110	67.9%	50.6 (3-130)
バブロンゴールドA (バブロンSゴールドW)	43	26.5%	63.2 (5-250)
新トニン咳止め液	6	3.7%	
新ルル (A錠s、Aゴールドs)、ルルアタック (EX、EXプレミアム、NX,NXプレミ アム、CX、CXプレミアム、IBエース)	11	6.8%	
ベンザブロック (S、Sプレミアム、L、Lプレミアム、IP、IPプレミアム)	1	0.6%	
その他	4	2.5%	
製品名不明	10	6.2%	
コデイン* (n=3)			
アネトン (アネトンせき止め液、アネトンせき止め)	0	0.0%	
製品名不明	3	100.0%	
プロモバレルリル尿素* (n=45)			
ウット	35	77.8%	26.1 (5-60)
ナロン錠 (ナロンエースT)	14	31.1%	21.8 (3-48)
その他	1	2.2%	
製品名不明	2	4.4%	
デキストロメトर्फアン (n=102)			
メジコンせき止めPro	79	77.5%	37.9 (6-120)
新コンタック (新コンタックかぜE X持続性、新コンタックかぜ総合など)	15	14.7%	29.0 (12-40)
エスエスブロン液L	9	8.8%	
バブロンSα (錠、顆粒、微粒)	5	4.9%	
エスタック総合感冒	2	2.0%	
ベンザエースA	0	0.0%	
パイロンPL錠ゴールド	0	0.0%	
その他	2	0.0%	
製品名不明	6	5.9%	
ジフェンヒドラミン (n=52)			
レスタミン (レスタミンコーワ糖衣錠など)	45	86.5%	84.6 (20-300)
ドリエル (ドリエルEX)	5	9.6%	
トラベルミン	0	0.0%	
ドリーミンZ	0	0.0%	
その他	3	5.8%	
製品名不明	0	0.0%	
アリルイソプロピルアセチル尿素 (n=21)			
イブ (イブA錠、イブA錠EX、イブクイック頭痛薬、イブクイック頭痛薬DX)	14	66.7%	
新セデス錠 (セデス・ハイ、ハイプロテクト、ハイG、V、キュア)	4	19.0%	
パファリンプレミアム	4	19.0%	
ロキソニンS プレミアム	5	23.8%	
ディバシオIPa	0	0.0%	
ノーシンピュア	0	0.0%	
リコリプラスエースa	0	0.0%	
その他	2	9.5%	
製品名不明	0	0.0%	
カフェイン製剤 (n=10)			
エスタロンモカ錠 (エスタロンモカ12)	9	90.0%	
その他	0	0.0%	
製品名不明	1	10.0%	

*濫用等のおそれのある医薬品に指定されている成分

表3. 市販薬の有効成分ごとにみた市販薬症例の基本属性および飲酒状況

	全体		ジヒドロコデイン		コデイン		プロモバレリル 尿素		デキストロメト ルファン	
	n=294		n=162		n=3		n=45		n=102	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
平均年齢 (min-max)	29.1 (16-77)		28.3(16-73)		31.0(21-48)		36.7(16-77)		25.7(16-67)	
性別										
女性	210	71.4%	113	70.2%	1	33.3%	32	71.1%	73	71.6%
男性	82	27.9%	47	29.2%	2	66.7%	13	28.9%	29	28.4%
その他	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.3%
現在の就労状況										
有職	70	23.8%	37	22.8%	0	0.0%	9	20.0%	21	20.6%
無職	218	74.1%	121	74.7%	3	100.0%	33	73.3%	80	78.4%
不明	6	2.0%	4	2.5%	0	0.0%	3	6.7%	1	1.0%
飲酒頻度										
0日（飲んでいない）	156	53.1%	90	55.9%	2	66.7%	23	51.1%	54	52.9%
1～2日	12	4.1%	7	4.3%	0	0.0%	2	4.4%	8	7.8%
3～5日	8	2.7%	6	3.7%	0	0.0%	3	6.7%	4	3.9%
6～9日	7	2.4%	5	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.9%
10～19日	4	1.4%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%
20～24日	4	1.4%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%
毎日	17	5.8%	11	6.8%	1	33.3%	3	6.7%	8	7.8%
不明	86	29.3%	36	22.4%	0	0.0%	14	31.1%	21	20.6%
主として飲んでいる酒類										
一度も飲んでいない	108	36.7%	58	36.3%	0	0.0%	17	41.5%	41	40.6%
ビール・発泡酒	12	4.1%	9	5.6%	0	0.0%	4	9.8%	6	5.9%
日本酒	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ワイン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
蒸留酒（焼酎、ウイスキー、テキーラなど）	10	3.4%	6	3.8%	1	50.0%	3	7.3%	3	3.0%
酎ハイ・サワー（7%未満）	13	4.4%	8	5.0%	0	0.0%	2	4.9%	6	5.9%
酎ハイ・サワー（7%以上のストロング系）	31	10.5%	20	12.5%	1	50.0%	2	4.9%	14	13.9%
その他の酒	4	1.4%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不明	115	39.1%	55	34.4%	0	0.0%	13	31.7%	31	30.7%

表3. 市販薬の有効成分ごとにみた市販薬症例の基本属性および飲酒状況（続き）

	ジフェンヒドラ ミン		アリルイソプロピ ルアセチル尿素		カフェイン製剤		その他		有効成分不明	
	n=52		n=21		n=10		n=23		n=19	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
平均年齢（min-max）	29.6(17-59)		29.3(16-52)		24.5(16-47)		28.8(16-58)		24.8 (16-51)	
性別										
女性	40	76.9%	16	76.2%	8	80.0%	13	56.5%	16	84.2%
男性	12	23.1%	5	23.8%	2	20.0%	10	43.5%	3	15.8%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
現在の就労状況										
有職	13	25.0%	7	33.3%	4	40.0%	6	26.1%	4	21.1%
無職	37	71.2%	14	66.7%	6	60.0%	17	73.9%	15	78.9%
不明	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
飲酒頻度										
0日（飲んでいない）	31	59.6%	8	38.1%	5	50.0%	6	26.1%	6	31.6%
1～2日	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3～5日	4	7.7%	2	9.5%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%
6～9日	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10～19日	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
20～24日	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
毎日	3	5.8%	2	9.5%	0	0.0%	1	4.3%	1	5.3%
不明	13	25.0%	9	42.9%	4	40.0%	15	65.2%	12	63.2%
主として飲んでいる酒類										
一度も飲んでいない	24	46.2%	7	33.3%	4	40.0%	2	10.5%	4	21.1%
ビール・発泡酒	3	5.8%	3	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本酒	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ワイン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%				
蒸留酒（焼酎、ウイスキー、テキーラなど）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	1	5.3%
酎ハイ・サワー（7%未満）	3	5.8%	1	4.8%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%
酎ハイ・サワー（7%以上のストロング系）	6	11.5%	1	4.8%	1	10.0%	1	5.3%	1	5.3%
その他の酒	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
不明	16	30.8%	9	42.9%	5	50.0%	14	73.7%	12	63.2%

表4. 市販薬の有効成分ごとにみた市販薬症例の受診経緯および診断状況

	全体		ジヒドロコデイン		コデイン		プロモバレリル 尿素		デキストロメト ルファン	
	n=294		n=162		n=3		n=45		n=102	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
受診経緯										
本人の意向	71	24.1%	44	27.2%	1	33.3%	9	20.0%	25	24.5%
家族の勧め	113	38.4%	51	31.5%	1	33.3%	16	35.6%	45	44.1%
他の医療機関からの紹介	144	49.0%	79	48.8%	2	66.7%	21	46.7%	52	51.0%
精神保健福祉センター・保健所からの紹介	19	6.5%	14	8.6%	0	0.0%	5	11.1%	6	5.9%
学校からの紹介	10	3.4%	7	4.3%	0	0.0%	2	4.4%	3	2.9%
司法機関（保護観察所、更生保護施設など）からの紹介	5	1.7%	3	1.9%	0	0.0%	1	2.2%	2	2.0%
依存症回復施設（ダルクなど）からの紹介	11	3.7%	8	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%
非自発的入院から	8	2.7%	3	1.9%	1	33.3%	5	11.1%	3	2.9%
その他	18	6.1%	7	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.9%
経緯不明	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
現在の精神医学的状态										
(F1x.0) 急性中毒	27	9.2%	11	6.8%	0	0.0%	9	20.0%	14	13.7%
(F1x.1) 有害な使用	118	40.1%	63	38.9%	1	33.3%	22	48.9%	44	43.1%
(F1x.2) 依存症候群	202	68.7%	117	72.2%	2	66.7%	35	77.8%	71	69.6%
(F1x.3) 離脱状態	9	3.1%	7	4.3%	0	0.0%	2	4.4%	5	4.9%
(F1x.4) せん妄を伴う離脱状態	2	0.7%	2	1.2%	0	0.0%	1	2.2%	2	2.0%
(F1x.5) 精神病的障害	9	3.1%	4	2.5%	0	0.0%	1	2.2%	3	2.9%
(F1x.6) 健忘症候群	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%
(F1x.7) 残遺性障害・遅発性精神病的障害	2	0.7%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%
(F1x.8) 他の精神および行動の障害	4	1.4%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%
物質関連障害以外の併存精神障害										
F0: 症状性を含む器質性精神障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
F2: 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	15	5.1%	8	4.9%	1	33.3%	2	4.4%	6	5.9%
F3: 気分障害	108	36.7%	58	35.8%	1	33.3%	15	33.3%	34	33.3%
F4: 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	79	26.9%	51	31.5%	0	0.0%	10	22.2%	29	28.4%
F5: 生理的障害及び身体的要因に関連した精神障害	9	3.1%	5	3.1%	0	0.0%	1	2.2%	2	2.0%
F6: 成人の人格及び行動の障害	38	12.9%	25	15.4%	1	33.3%	5	11.1%	18	17.6%
F7: 知的障害（精神遅滞）	33	11.2%	16	9.9%	0	0.0%	6	13.3%	15	14.7%
F8: 心理的発達障害	66	22.4%	47	29.0%	1	33.3%	7	15.6%	33	32.4%
F9: 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	46	15.6%	29	17.9%	1	33.3%	3	6.7%	24	23.5%
いずれも該当しない	36	12.2%	18	11.1%	0	0.0%	9	20.0%	5	4.9%

表4. 市販薬の有効成分ごとにみた市販薬症例の受診経緯および診断状況（続き）

	ジフェンヒドラ ミン		アリルイソプロピ ルアセチル尿素		カフェイン製剤		その他		有効成分不明	
	n=52		n=21		n=10		n=23		n=19	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
受診経緯										
本人の意向	16	30.8%	2	9.5%	0	0.0%	3	13.0%	5	26.3%
家族の勧め	18	34.6%	9	42.9%	4	40.0%	10	43.5%	9	47.4%
他の医療機関からの紹介	22	42.3%	6	28.6%	6	60.0%	14	60.9%	11	57.9%
精神保健福祉センター・保健所からの紹介	2	3.8%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学校からの紹介	4	7.7%	2	9.5%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
司法機関（保護観察所、更生保護施設など）からの紹介	1	1.9%	2	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
依存症回復施設（ダルクなど）からの紹介	2	3.8%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
非自発的入院から	1	1.9%	0	0.0%	1	10.0%	1	4.3%	0	0.0%
その他	4	7.7%	2	9.5%	0	0.0%	3	13.0%	2	10.5%
経緯不明	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
現在の精神医学的状态										
(F1x.0) 急性中毒	7	13.5%	4	19.0%	2	20.0%	2	8.7%	1	5.3%
(F1x.1) 有害な使用	28	53.8%	13	61.9%	8	80.0%	12	52.2%	10	52.6%
(F1x.2) 依存症候群	36	69.2%	12	57.1%	3	30.0%	11	47.8%	8	42.1%
(F1x.3) 離脱状態	3	5.8%	2	9.5%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%
(F1x.4) せん妄を伴う離脱状態	1	1.9%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(F1x.5) 精神病的障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%
(F1x.6) 健忘症候群	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(F1x.7) 残遺性障害・遅発性精神病的障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(F1x.8) 他の精神および行動の障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
物質関連障害以外の併存精神障害										
F0: 症状性を含む器質性精神障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
F2: 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1	1.9%	3	14.3%	0	0.0%	3	13.0%	1	5.3%
F3: 気分障害	17	32.7%	1	4.8%	6	60.0%	7	30.4%	6	31.6%
F4: 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	18	34.6%	7	33.3%	1	10.0%	4	17.4%	3	15.8%
F5: 生理的障害及び身体的要因に関連した精神障害	4	7.7%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
F6: 成人の人格及び行動の障害	5	9.6%	2	9.5%	2	20.0%	3	13.0%	1	5.3%
F7: 知的障害（精神遅滞）	7	13.5%	7	33.3%	2	20.0%	2	8.7%	4	21.1%
F8: 心理的発達障害	14	26.9%	3	14.3%	2	20.0%	4	17.4%	5	26.3%
F9: 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	9	17.3%	2	9.5%	1	10.0%	2	8.7%	2	10.5%
いずれも該当しない	5	9.6%	1	4.8%	0	0.0%	3	13.0%	2	10.5%

表5. 市販薬の有効成分ごとにみた市販薬症例の乱用に関連する項目

	全体		ジヒドロコデイン		コデイン		プロモバレリル 尿素		デキストロメト ルファン	
	n=294		n=162		n=3		n=45		n=102	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
乱用をはじめた心理社会的な背景（きっかけ）										
家族関係（親との不仲、ネグレクト、虐待なども含む）	122	41.5%	69	42.6%	1	33.3%	22	48.9%	42	41.2%
友人関係（いじめ、仲間外れなどを含む）	88	29.9%	54	33.3%	0	0.0%	14	31.1%	41	40.2%
学校でのトラブル（成績不振、教員とのトラブルなど）	49	16.7%	29	17.9%	1	33.3%	5	11.1%	23	22.5%
仕事上のトラブル	49	16.7%	27	16.7%	0	0.0%	11	24.4%	16	15.7%
その他の背景	52	17.7%	30	18.5%	2	66.7%	9	20.0%	24	23.5%
不明	36	12.2%	11	6.8%	0	0.0%	6	13.3%	11	10.8%
乱用に関する情報（情報源）										
インターネット（ツイッター、LINEなどのSNS）	98	33.3%	63	38.9%	2	66.7%	18	40.0%	53	52.0%
インターネット（SNS以外の動画サイトやホームページなど）	57	19.4%	34	21.0%	1	33.3%	12	26.7%	30	29.4%
友人・知人（学校、職場関係）	21	7.1%	12	7.4%	0	0.0%	1	2.2%	10	9.8%
友人・知人（学校・職場以外）	32	10.9%	20	12.3%	0	0.0%	6	13.3%	13	12.7%
その場限りの人から	10	3.4%	5	3.1%	0	0.0%	2	4.4%	6	5.9%
家族（親、きょうだいなど）から	3	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.9%
その他の情報源	5	1.7%	3	1.9%	0	0.0%	2	4.4%	0	0.0%
不明	134	45.6%	61	37.7%	1	33.3%	20	44.4%	30	29.4%
乱用に期待していた効果・作用										
多幸感	41	13.9%	23	14.2%	0	0.0%	6	13.3%	26	25.5%
フワフワ・浮遊感	66	22.4%	40	24.7%	0	0.0%	9	20.0%	33	32.4%
気分あがる・テンション上がる	78	26.5%	53	32.7%	0	0.0%	9	20.0%	32	31.4%
幻覚がみえる	21	7.1%	11	6.8%	0	0.0%	2	4.4%	15	14.7%
集中力が高くなる	37	12.6%	33	20.4%	0	0.0%	1	2.2%	9	8.8%
リラックス・落ち着く	92	31.3%	59	36.4%	3	100.0%	19	42.2%	36	35.3%
気持ちの落ち込みが改善する	124	42.2%	76	46.9%	3	100.0%	21	46.7%	50	49.0%
眠くなる	29	9.9%	12	7.4%	1	33.3%	15	33.3%	7	6.9%
眠気がなくなる	5	1.7%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%
性的な快感や興奮	2	0.7%	1	0.6%	0	0.0%	1	2.2%	2	2.0%
やせる・食欲がなくなる	8	2.7%	6	3.7%	0	0.0%	4	8.9%	5	4.9%
食欲がます	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%
疲れがとれる	13	4.4%	8	4.9%	0	0.0%	5	11.1%	3	2.9%
身体の痛みが和らぐ	11	3.7%	6	3.7%	0	0.0%	4	8.9%	2	2.0%
その他	36	12.2%	22	13.6%	0	0.0%	3	6.7%	18	17.6%
不明	47	12.2%	14	8.6%	0	0.0%	5	11.1%	6	5.9%
市販薬の入手方法										
薬局・ドラッグストアなどの実店舗で購入	206	70.1%	125	77.2%	3	100.0%	35	77.8%	81	79.4%
インターネットで購入（国内サイト）	61	20.7%	38	23.5%	1	33.3%	4	8.9%	31	30.4%
インターネットで購入（海外からの個人輸入）	15	5.1%	6	3.7%	1	33.3%	2	4.4%	10	9.8%
友人・恋人・知人から譲り受けた	21	7.1%	11	6.8%	0	0.0%	4	8.9%	13	12.7%
家の常備薬	6	2.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%
万引き	11	3.7%	4	2.5%	0	0.0%	1	2.2%	3	2.9%
その他の方法	3	1.0%	1	0.6%	1	33.3%	2	4.4%	2	2.0%
不明	62	21.1%	28	17.3%	0	0.0%	8	17.8%	15	14.7%
救急医療機関への救急搬送の経験										
過去1年以内にあり（入院を伴うエピソード）	60	20.4%	36	22.2%	1	33.3%	13	28.9%	33	32.4%
過去1年以内にあり（入院を伴わないエピソード）	25	8.5%	13	8.0%	1	33.3%	0	0.0%	11	10.8%
過去1年以内にはないが、過去1年以上前にあり	93	31.6%	49	30.2%	0	0.0%	17	37.8%	25	24.5%
一度もない	82	27.9%	42	25.9%	0	0.0%	9	20.0%	25	24.4%
不明	33	11.2%	20	12.3%	1	33.3%	5	11.1%	8	7.8%

表5. 市販薬の有効成分ごとにみた市販薬症例の乱用に関連する項目（続き）

	ジフェンヒドラ ミン		アリルイソプロピ ルアセチル尿素		カフェイン製剤		その他		有効成分不明	
	n=52		n=21		n=10		n=23		n=19	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
乱用をはじめた心理社会的な背景（きっかけ）										
家族関係（親との不仲、ネグレクト、虐待なども含む）	30	57.7%	11	52.4%	7	70.0%	6	26.1%	4	21.1%
友人関係（いじめ、仲間外れなどを含む）	23	44.2%	11	52.4%	5	50.0%	2	8.7%	6	31.6%
学校でのトラブル（成績不振、教員とのトラブルなど）	8	15.4%	4	19.0%	3	30.0%	5	21.7%	6	31.6%
仕事上のトラブル	7	13.5%	2	9.5%	1	10.0%	5	21.7%	2	10.5%
その他の背景	8	15.4%	5	23.8%	0	0.0%	9	39.1%	1	5.3%
不明	3	5.8%	3	14.3%	1	10.0%	3	13.0%	5	26.3%
乱用に関する情報（情報源）										
インターネット（ツイッター、LINEなどのSNS）	25	48.1%	10	47.6%	5	50.0%	6	26.1%	2	10.5%
インターネット（SNS以外の動画サイトやホームページなど）	13	25.0%	6	28.6%	2	20.0%	4	17.4%	0	0.0%
友人・知人（学校、職場関係）	1	1.9%	2	9.5%	0	0.0%	2	8.7%	1	5.3%
友人・知人（学校・職場以外）	6	11.5%	4	19.0%	2	20.0%	2	8.7%	1	5.3%
その場限りの人から	2	3.8%	2	9.5%	2	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
家族（親、きょうだいなど）から	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他の情報源	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不明	21	40.4%	8	38.1%	4	40.0%	15	65.2%	15	78.9%
乱用に期待していた効果・作用										
多幸感	5	9.6%	4	19.0%	2	20.0%	1	4.3%	0	0.0%
フワフワ・浮遊感	12	23.1%	6	28.6%	3	30.0%	2	8.7%	1	5.3%
気分あがる・テンション上がる	9	17.3%	4	19.0%	4	40.0%	2	8.7%	3	15.8%
幻覚がみえる	4	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%
集中力が高くなる	3	5.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	10.5%
リラックス・落ち着く	23	44.2%	7	33.3%	1	10.0%	5	21.7%	4	21.1%
気持ちの落ち込みが改善する	26	50.0%	10	47.6%	4	40.0%	6	26.1%	2	10.5%
眠くなる	10	19.2%	1	4.8%	2	20.0%	4	17.4%	1	5.3%
眠気がなくなる	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
性的な快感や興奮	1	1.9%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
やせる・食欲がなくなる	3	5.8%	3	14.3%	1	10.0%	0	0.0%	1	5.3%
食欲がます	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
疲れがとれる	4	7.7%	3	14.3%	1	10.0%	0	0.0%	1	5.3%
身体の痛みが和らぐ	1	1.9%	3	14.3%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%
その他	11	21.2%	3	14.3%	1	10.0%	2	8.7%	2	10.5%
不明	2	3.8%	4	19.0%	4	40.0%	10	43.5%	10	52.6%
市販薬の入手方法										
薬局・ドラッグストアなどの実店舗で購入	39	75.0%	15	71.4%	6	60.0%	11	47.8%	4	21.1%
インターネットで購入（国内サイト）	13	25.0%	2	9.5%	1	10.0%	2	8.7%	1	5.3%
インターネットで購入（海外からの個人輸入）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	21.7%	0	0.0%
友人・恋人・知人から譲り受けた	4	7.7%	3	14.3%	3	30.0%	1	4.3%	2	10.5%
家の常備薬	0	0.0%	1	4.8%	1	10.0%	3	13.0%	1	5.3%
万引き	1	1.9%	1	4.8%	1	10.0%	2	8.7%	1	5.3%
その他の方法	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不明	10	19.2%	5	23.8%	3	30.0%	7	30.4%	11	57.9%
救急医療機関への救急搬送の経験										
過去1年以内にあり（入院を伴うエピソード）	15	28.8%	6	28.6%	3	30.0%	4	17.4%	2	10.5%
過去1年以内にあり（入院を伴わないエピソード）	2	3.8%	0	0.0%	1	10.0%	3	13.0%	2	10.5%
過去1年以内にはないが、過去1年以上前にあり	18	34.6%	9	42.9%	4	40.0%	8	34.8%	5	26.3%
一度もない	12	23.1%	4	19.0%	1	10.0%	6	26.1%	6	31.6%
不明	4	7.7%	2	9.5%	1	10.0%	1	4.3%	4	21.1%

表6. 性別にみた市販薬症例が主として乱用していた市販薬の有効成分（n=294）

	女性 (n=210)		男性 (n=82)		p-value ⁵⁾
	n	%	n	%	
主として乱用していた市販薬の有効成分					
ジヒドロコデイン*	113	53.8%	47	57.3%	0.588
コデイン*	1	0.5%	2	2.4%	0.135
プロモバレリル尿素*	32	15.2%	13	15.9%	0.896
デキストロメトルファン	73	34.8%	29	35.4%	0.923
ジフェンヒドラミン	40	19.0%	12	14.6%	0.376
アリルイソプロピルアセチル尿素	16	7.6%	5	6.1%	0.651
カフェイン製剤	8	3.8%	2	2.4%	0.563
その他の市販薬	13	6.2%	10	12.2%	0.087
有効成分不明	16	7.6%	3	3.7%	0.218

*濫用のおそれのある医薬品

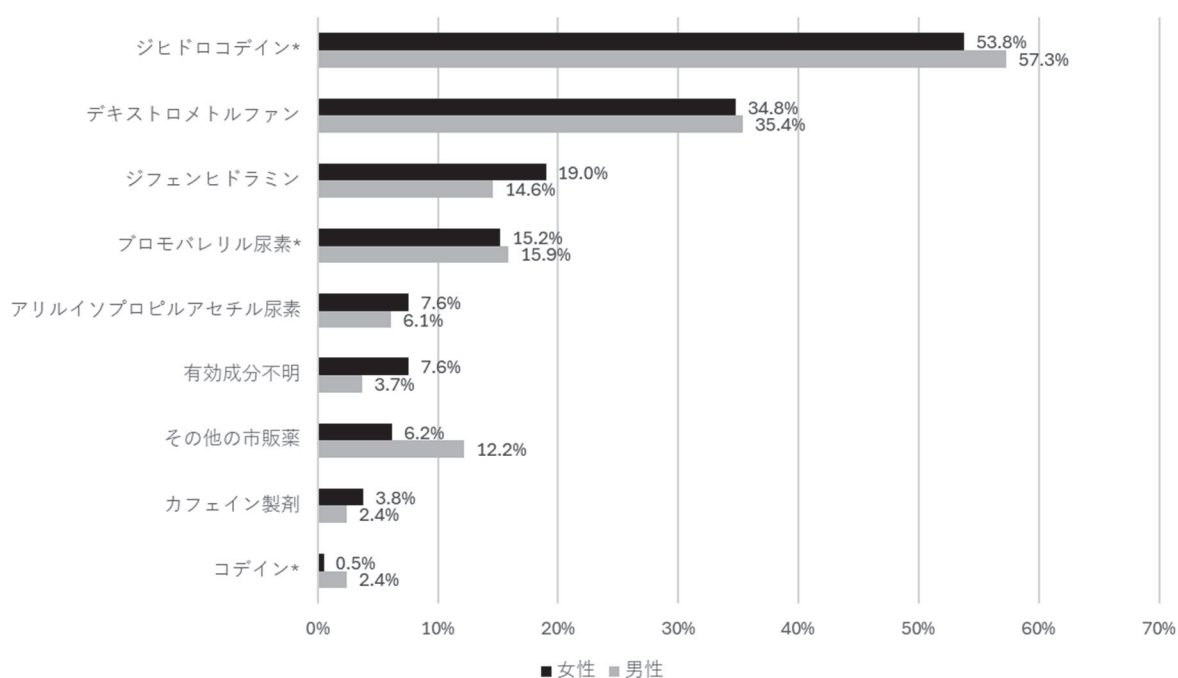


図2. 性別にみた市販薬症例が主として乱用していた市販薬の有効成分（n=294）

*濫用のおそれのある医薬品

表7. 性別にみた市販薬症例の基本属性および飲酒状況 (n=294)

	女性 (n=210)		男性 (n=82)		p-value ⁵
	n	%	n	%	
平均年齢 (SD)	27.1(11.5)		34.2(12.4)		<0.001
年代					<0.001
10代	64	30.5%	8	9.8%	
20代	84	40.0%	26	31.7%	
30代	37	17.6%	24	29.3%	
40代	11	5.2%	15	18.3%	
50代	10	4.8%	7	8.5%	
60代以上	4	1.9%	2	2.4%	
現在の就労状況					0.742
有職	48	22.9%	21	25.6%	
無職	157	74.8%	60	73.2%	
不明	5	2.4%	1	1.2%	
飲酒頻度					0.606
0日 (飲んでいない)	115	54.8%	40	49.4%	
1～2日	8	3.8%	4	4.9%	
3～5日	6	2.9%	2	2.5%	
6～9日	5	2.4%	2	2.5%	
10～19日	2	1.0%	1	1.2%	
20～24日	1	0.5%	3	3.7%	
毎日	11	5.2%	6	7.4%	
不明	62	29.5%	23	28.4%	
主として飲んでいる酒類					0.521
一度も飲んでいない	78	37.9%	30	38.0%	
ビール・発泡酒	7	3.4%	5	6.3%	
日本酒	0	0.0%	1	1.3%	
ワイン	0	0.0%	0	0.0%	
蒸留酒 (焼酎、ウイスキー、テキーラなど)	6	2.9%	4	5.1%	
酎ハイ・サワー (7%未満)	10	4.9%	3	3.8%	
酎ハイ・サワー (7%以上のストロング系)	22	10.7%	8	10.1%	
その他の酒	4	1.9%	0	0.0%	
不明	79	38.3%	28	35.4%	

表8 性別にみた市販薬症例の受診経緯および診断状況 (n=294)

	女性 (n=210)		男性 (n=82)		p-value ⁵
	n	%	n	%	
受診経緯					
本人の意向	53	25.2%	17	20.7%	0.418
家族の勧め	80	38.1%	32	39.0%	0.883
他の医療機関からの紹介	108	51.4%	35	42.7%	0.179
精神保健福祉センター・保健所からの紹介	11	5.2%	8	9.8%	0.160
学校からの紹介	10	4.8%	0	0.0%	0.044
司法機関（保護観察所、更生保護施設など）からの紹介	4	1.9%	1	1.2%	0.685
依存症回復施設（ダルクなど）からの紹介	1	0.5%	10	12.2%	0.000
非自発的入院から	5	2.4%	3	3.7%	0.548
その他	15	7.1%	3	3.7%	0.266
経緯不明	0	0.0%	1	1.2%	0.109
現在の精神医学的状態					
(F1x.0) 急性中毒	19	9.0%	8	9.8%	0.851
(F1x.1) 有害な使用	97	46.2%	21	25.6%	0.001
(F1x.2) 依存症候群	131	62.4%	69	84.1%	0.000
(F1x.3) 離脱状態	4	1.9%	5	6.1%	0.062
(F1x.4) せん妄を伴う離脱状態	0	0.0%	2	2.4%	0.023
(F1x.5) 精神病性障害	6	2.9%	3	3.7%	0.722
(F1x.6) 健忘症候群	0	0.0%	1	1.2%	0.109
(F1x.7) 残遺性障害・遅発性精神病性障害	1	0.5%	1	1.2%	0.489
(F1x.8) 他の精神および行動の障害	2	1.0%	2	2.4%	0.326
物質関連障害以外の併存精神障害					
F0: 症状性を含む器質性精神障害	0	0.0%	0	0.0%	N/A
F2: 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	8	3.8%	7	8.5%	0.100
F3: 気分障害	79	37.6%	28	34.1%	0.580
F4: 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	66	31.4%	12	14.6%	0.004
F5: 生理的障害及び身体的要因に関連した精神障害	9	4.3%	0	0.0%	0.057
F6: 成人の人格及び行動の障害	30	14.3%	7	8.5%	0.184
F7: 知的障害（精神遅滞）	28	13.3%	4	4.9%	0.038
F8: 心理的発達の障害	45	21.4%	20	24.4%	0.585
F9: 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	30	14.3%	16	19.5%	0.271
いずれも該当しない	24	11.4%	12	14.6%	0.454

表9 性別にみた市販薬症例の乱用に関連する項目 (n=294)

	女性 (n=210)		男性 (n=82)		p-value ⁵
	n	%	n	%	
乱用をはじめた心理社会的な背景（きっかけ）					
家族関係（親との不仲、ネグレクト、虐待なども含む）	95	45.2%	26	31.7%	0.035
友人関係（いじめ、仲間外れなどを含む）	71	33.8%	17	20.7%	0.029
学校でのトラブル（成績不振、教員とのトラブルなど）	39	18.6%	10	12.2%	0.190
仕事上のトラブル	25	11.9%	23	28.0%	0.001
その他の背景	33	15.7%	19	23.2%	0.134
不明	22	10.5%	14	17.1%	0.123
乱用に関する情報（情報源）					
インターネット（ツイッター、LINEなどのSNS）	67	31.9%	30	36.6%	0.445
インターネット（SNS以外の動画サイトやホームページなど）	38	18.1%	19	23.2%	0.325
友人・知人（学校、職場関係）	14	6.7%	7	8.5%	0.578
友人・知人（学校・職場以外）	19	9.0%	13	15.9%	0.094
その場限りの人から	7	3.3%	3	3.7%	0.891
家族（親、きょうだいなど）から	3	1.4%	0	0.0%	0.277
その他の情報源	4	1.9%	0	0.0%	0.208
不明	101	48.1%	32	39.0%	0.162
乱用に期待していた効果・作用					
多幸感	30	14.3%	10	12.2%	0.641
フワフワ・浮遊感	4	22.9%	18	22.0%	0.868
気分あがる・テンション上がる	50	23.8%	26	31.7%	0.167
幻覚がみえる	15	7.1%	6	7.3%	0.959
集中力が高くなる	21	10.0%	16	19.5%	0.028
リラックス・落ち着く	60	28.6%	31	37.8%	0.126
気持ちの落ち込みが改善する	86	41.0%	36	43.9%	0.646
眠くなる	19	9.0%	10	12.2%	0.419
眠気がなくなる	3	1.4%	2	2.4%	0.550
性的な快感や興奮	1	0.5%	1	1.2%	0.489
やせる・食欲がなくなる	8	3.8%	0	0.0%	0.073
食欲がます	0	0.0%	1	1.2%	0.109
疲れがとれる	6	2.9%	7	8.5%	0.034
身体の痛みが和らぐ	8	3.8%	3	3.7%	0.951
その他	29	13.8%	7	8.5%	0.218
不明	38	18.1%	9	11.0%	0.137
市販薬の入手方法					
薬局・ドラッグストアなどの実店舗で購入	148	70.5%	56	68.3%	0.715
インターネットで購入（国内サイト）	51	24.3%	10	12.2%	0.022
インターネットで購入（海外からの個人輸入）	8	3.8%	7	8.5%	0.100
友人・恋人・知人から譲り受けた	18	8.6%	3	3.7%	0.144
家の常備薬	5	2.4%	1	1.2%	0.530
万引き	4	1.9%	7	8.5%	0.007
その他の方法	2	1.0%	1	1.2%	0.839
不明	46	21.9%	16	19.5%	0.653
救急医療機関への救急搬送の経験					
過去1年以内にあり（入院を伴うエピソード）	46	21.9%	13	15.9%	0.247
過去1年以内にあり（入院を伴わないエピソード）	16	7.6%	8	9.8%	0.550
過去1年以内にはないが、過去1年以上前にあり	63	30.0%	30	36.6%	0.278
一度もない	61	29.0%	21	25.6%	0.557
不明	24	11.4%	9	11.0%	0.913

表10. 年代別にみた市販薬症例が主として乱用していた市販薬の有効成分 (n=294)

	10代 (n=72)		20代 (n=110)		30代 (n=62)		40代 (n=26)		50代 (n=18)		60代以上 (n=6)		p-value ⁵
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
主として乱用していた市販薬の有効成分													
ジヒドロコデイン*	37	51.4%	67	60.9%	35	56.5%	13	50.0%	8	44.4%	2	33.3%	0.522
コデイン*	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0.496
ブロモバレリル尿素*	4	5.6%	10	9.1%	17	27.4%	7	26.9%	5	27.8%	2	33.3%	<0.001
デキストロメトルファン	31	43.1%	47	42.7%	14	22.6%	6	11.1%	2	11.1%	2	33.3%	0.009
ジフェンヒドラミン	7	9.7%	24	21.8%	10	16.1%	8	30.8%	3	16.7%	0	0.0%	0.114
アリルイソプロピルアセチル尿素	5	6.9%	8	7.3%	3	4.8%	4	15.4%	1	5.6%	0	0.0%	0.594
カフェイン製剤	3	4.2%	6	5.5%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0.469
その他の市販薬	9	12.5%	4	3.6%	6	9.7%	3	11.5%	1	5.6%	0	0.0%	0.279
有効成分不明	6	8.3%	8	7.3%	3	4.8%	1	3.8%	1	5.6%	0	0.0%	0.908

*濫用のおそれのある医薬品

表11. 年代別にみた市販薬症例の基本属性および飲酒状況 (n=294)

	10代 (n=72)		20代 (n=110)		30代 (n=62)		40代 (n=26)		50代 (n=18)		60代以上 (n=6)		p-value ⁵
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
性別													<0.001
女性	64	88.9%	84	76.4%	37	60.7%	11	42.3%	10	58.8%	4	66.7%	0.068
男性	8	11.1%	26	23.6%	24	39.3%	15	57.7%	7	41.2%	2	33.3%	
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
現在の就労状況													0.068
有職	6	8.3%	36	32.7%	17	27.4%	7	26.9%	3	16.7%	1	16.7%	0.837
無職	64	88.9%	72	65.5%	44	71.0%	19	73.1%	14	77.8%	5	83.3%	
不明	2	2.8%	2	1.8%	1	1.6%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	
飲酒頻度													0.837
0日（飲んでいない）	39	54.2%	50	45.5%	36	59.0%	14	53.8%	13	72.2%	4	66.7%	0.092
1～2日	1	1.4%	8	7.3%	2	3.3%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	
3～5日	1	1.4%	4	3.6%	1	1.6%	2	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	
6～9日	2	2.8%	4	3.6%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
10～19日	1	1.4%	1	0.9%	1	1.6%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	
20～24日	0	0.0%	3	2.7%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
毎日	2	2.8%	8	7.3%	3	4.9%	2	7.7%	2	11.1%	0	0.0%	
不明	26	36.1%	32	29.1%	16	26.2%	7	26.9%	2	11.1%	2	33.3%	
主として飲んでいる酒類													
一度も飲んでいない	33	46.5%	27	25.0%	23	39.0%	12	48.0%	9	50.0%	4	66.7%	0.092
ビール・発泡酒	0	0.0%	2	1.9%	5	8.5%	4	16.0%	1	5.6%	0	0.0%	
日本酒	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
ワイン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
蒸留酒（焼酎、ウイスキー、テキーラなど）	0	0.0%	5	4.6%	3	5.1%	0	0.0%	2	11.1%	0	0.0%	
酎ハイ・サワー（7%未満）	1	1.4%	7	6.5%	3	5.1%	2	8.0%	0	0.0%	0	0.0%	
酎ハイ・サワー（7%以上のストロング系）	10	14.1%	15	13.9%	4	6.8%	1	4.0%	1	5.6%	0	0.0%	
その他の酒	1	1.4%	2	1.9%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
不明	26	36.6%	49	45.4%	20	33.9%	6	24.0%	5	27.8%	2	33.3%	

表12. 年代別にみた市販薬症例の受診経緯および診断状況 (n=294)

	10代 (n=72)		20代 (n=110)		30代 (n=62)		40代 (n=26)		50代 (n=18)		60代以上 (n=6)		p-value ⁵
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
受診経緯													
本人の意向	14	19.4%	30	27.3%	17	27.4%	8	30.8%	2	11.1%	0	0.0%	0.304
家族の勧め	37	51.4%	41	37.3%	23	37.1%	8	30.8%	2	11.1%	2	33.3%	0.041
他の医療機関からの紹介	40	55.6%	58	52.7%	28	45.2%	7	26.9%	9	50.0%	2	33.3%	0.163
精神保健福祉センター・保健所からの紹介	3	4.2%	6	5.5%	4	6.5%	4	15.4%	1	5.6%	1	16.7%	0.381
学校からの紹介	3	4.2%	7	6.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.220
司法機関（保護観察所、更生保護施設など）からの紹介	1	1.4%	1	0.9%	1	1.6%	1	3.8%	1	5.6%	0	0.0%	0.719
依存症回復施設（ダルクなど）からの紹介	0	0.0%	4	3.6%	5	8.1%	0	0.0%	2	11.1%	0	0.0%	0.076
非自発的入院から	0	0.0%	3	2.7%	1	1.6%	1	3.8%	2	11.1%	1	16.7%	0.040
その他	6	8.3%	4	3.6%	4	6.5%	4	15.4%	0	0.0%	0	0.0%	0.203
経緯不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0.009
現在の精神医学的状态													
(F1x.0) 急性中毒	7	9.7%	11	10.0%	4	6.5%	3	11.5%	2	11.1%	0	0.0%	0.910
(F1x.1) 有害な使用	46	63.9%	42	38.2%	15	24.2%	7	26.9%	5	27.8%	3	50.0%	<0.001
(F1x.2) 依存症候群	24	33.3%	75	68.2%	56	90.3%	26	100.0%	18	100.0%	3	50.0%	<0.001
(F1x.3) 離脱状態	1	1.4%	4	3.6%	2	3.2%	1	3.8%	0	0.0%	1	16.7%	0.395
(F1x.4) せん妄を伴う離脱状態	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0.300
(F1x.5) 精神病的障害	4	5.6%	1	0.9%	2	3.2%	1	3.8%	0	0.0%	1	16.7%	0.180
(F1x.6) 健忘症候群	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0.066
(F1x.7) 残遺性障害・遅発性精神病的障害	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0.413
(F1x.8) 他の精神および行動の障害	1	1.4%	3	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.688
物質関連障害以外の併存精神障害													
F0: 症状性を含む器質性精神障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
F2: 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	2	2.8%	4	3.6%	5	8.1%	2	7.7%	2	11.1%	0	0.0%	0.488
F3: 気分障害	23	31.9%	45	40.9%	22	35.5%	10	38.5%	6	33.3%	2	33.3%	0.885
F4: 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	32	44.4%	28	25.5%	17	27.4%	0	0.0%	1	5.6%	1	16.7%	<0.001
F5: 生理的障害及び身体的要因に関連した精神障害	2	2.8%	5	4.5%	2	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.788
F6: 成人の人格及び行動の障害	7	9.7%	17	15.5%	7	11.3%	3	11.5%	4	22.2%	0	0.0%	0.586
F7: 知的障害（精神遅滞）	4	5.6%	12	10.9%	8	12.9%	6	23.1%	3	16.7%	0	0.0%	0.188
F8: 心理的発達障害	23	31.9%	28	25.5%	12	19.4%	2	7.7%	1	5.6%	0	0.0%	0.028
F9: 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	14	19.4%	21	19.1%	8	12.9%	3	11.5%	0	0.0%	0	0.0%	0.227
いずれも該当しない	3	4.2%	11	10.0%	12	19.4%	5	19.2%	3	16.7%	2	33.3%	0.038

表13. 年代別にみた市販薬症例の乱用に関連する項目（n=294）

	10代 (n=72)		20代 (n=110)		30代 (n=62)		40代 (n=26)		50代 (n=18)		60代以上 (n=6)		p-value ⁵
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
乱用をはじめた心理社会的な背景（きっかけ）													
家族関係（親との不仲、ネグレクト、虐待なども含む）	31	43.1%	44	40.0%	30	48.4%	7	26.9%	8	44.4%	2	33.3%	0.565
友人関係（いじめ、仲間外れなどを含む）	33	45.8%	37	33.6%	15	24.2%	2	7.7%	1	5.6%	0	0.0%	<0.001
学校でのトラブル（成績不振、教員とのトラブルなど）	24	33.3%	20	18.2%	4	6.5%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	<0.001
仕事上のトラブル	1	1.4%	19	17.3%	15	24.2%	9	34.6%	5	27.8%	0	0.0%	<0.001
その他の背景	10	13.9%	24	21.8%	12	19.4%	2	7.7%	2	11.1%	2	33.3%	0.364
不明	4	5.6%	14	12.7%	5	8.1%	8	30.8%	3	16.7%	2	33.3%	0.010
乱用に関する情報（情報源）													
インターネット（ツイッター、LINEなどのSNS）	25	34.7%	45	40.9%	17	27.4%	9	34.6%	2	11.1%	0	0.0%	0.053
インターネット（SNS以外の動画サイトやホームページなど）	17	23.6%	20	18.2%	10	16.1%	7	26.9%	2	11.1%	1	16.7%	0.683
友人・知人（学校、職場関係）	10	13.9%	6	5.5%	3	4.8%	0	0.0%	1	5.6%	1	16.7%	0.117
友人・知人（学校・職場以外）	6	8.3%	12	10.9%	9	14.5%	2	7.7%	3	16.7%	0	0.0%	0.707
その場限りの人から	5	6.9%	2	1.8%	1	1.6%	2	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0.261
家族（親、きょうだいなど）から	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0.158
その他の情報源	0	0.0%	1	0.9%	3	4.8%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0.188
不明	29	40.3%	48	43.6%	28	45.2%	16	61.5%	9	50.0%	4	66.7%	0.431
乱用に期待していた効果・作用													
多幸感	11	15.3%	18	16.4%	8	12.9%	2	7.7%	2	11.1%	0	0.0%	0.755
フワフワ・浮遊感	15	20.8%	28	25.5%	14	22.6%	5	19.2%	2	11.1%	2	33.3%	0.766
気分あがる・テンション上がる	13	18.1%	36	32.7%	15	24.2%	7	26.9%	6	33.3%	1	16.7%	0.334
幻覚がみえる	6	8.3%	10	9.1%	2	3.2%	2	7.7%	1	5.6%	0	0.0%	0.737
集中力が高くなる	1	1.4%	23	20.9%	6	9.7%	4	15.4%	3	16.7%	0	0.0%	0.005
リラックス・落ち着く	14	19.4%	29	26.4%	27	43.5%	13	50.0%	8	44.4%	1	16.7%	0.005
気持ちの落ち込みが改善する	22	30.6%	53	48.2%	27	43.5%	11	42.3%	9	50.0%	2	33.3%	0.278
眠くなる	2	2.8%	13	11.8%	8	12.9%	2	7.7%	4	22.2%	0	0.0%	0.106
眠気がなくなる	1	1.4%	1	0.9%	1	1.6%	1	3.8%	1	5.6%	0	0.0%	0.719
性的な快感や興奮	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0.300
やせる・食欲がなくなる	0	0.0%	5	4.5%	2	3.2%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0.428
食欲がます	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0.066
疲れがとれる	0	0.0%	5	4.5%	5	8.1%	1	3.8%	2	11.1%	0	0.0%	0.187
身体の痛みが和らぐ	1	1.4%	1	0.9%	2	3.2%	3	11.5%	2	11.1%	2	33.3%	<0.001
その他	14	19.4%	16	14.5%	4	6.5%	0	0.0%	1	5.6%	1	16.7%	0.064
不明	21	29.2%	13	11.8%	7	11.3%	4	15.4%	1	5.6%	1	16.7%	0.021
市販薬の入手方法													
薬局・ドラッグストアなどの実店舗で購入	46	63.9%	77	70.0%	45	72.6%	19	73.1%	15	83.3%	4	66.7%	0.676
インターネットで購入（国内サイト）	13	18.1%	35	31.8%	8	12.9%	3	11.5%	1	5.6%	1	16.7%	0.011
インターネットで購入（海外からの個人輸入）	2	2.8%	10	9.1%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.212
友人・恋人・知人から譲り受けた	6	8.3%	7	6.4%	3	4.8%	2	7.7%	3	16.7%	0	0.0%	0.595
家の常備薬	4	5.6%	0	0.0%	1	1.6%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0.172
万引き	1	1.4%	3	2.7%	1	1.6%	5	19.2%	1	5.6%	0	0.0%	0.001
その他の方法	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	0	16.7%	0.002
不明	20	27.8%	23	20.9%	12	19.4%	5	19.2%	1	5.6%	1	16.7%	0.443
救急医療機関への救急搬送の経験													
過去1年以内にあり（入院を伴うエピソード）	21	29.2%	27	24.5%	8	12.9%	2	7.7%	2	11.1%	0	0.0%	0.038
過去1年以内にあり（入院を伴わないエピソード）	7	9.7%	10	9.1%	2	3.2%	2	7.7%	4	22.2%	0	0.0%	0.197
過去1年以内にはないが、過去1年以上前にあり	11	15.3%	35	31.8%	28	45.2%	11	42.3%	7	38.9%	1	16.7%	0.005
一度もない	25	34.7%	25	22.7%	19	30.6%	8	30.8%	3	16.7%	2	33.3%	0.455
不明	9	12.5%	11	10.0%	5	8.1%	3	11.5%	2	11.1%	3	50.0%	0.076

表14. 救急搬送のエピソード別にみた市販薬症例が主として乱用していた市販薬の有効成分（n=258）

	過去1年以内				過去1年以		一度もない		p-value ⁵
	入院あり		入院なし		前				
	(n=60)		(n=23)		(n=93)		(n=82)		
	n	%	n	%	n	%	n	%	
主として乱用していた市販薬の有効成分									
ジヒドロコデイン*	36	60.0%	13	56.5%	49	52.7%	42	51.2%	0.743
コデイン*	1	1.7%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0.122
ブロモバレリル尿素*	13	21.7%	0	0.0%	17	18.3%	9	11.0%	0.048
デキストロメトルファン	33	55.0%	9	39.1%	25	26.9%	25	30.5%	0.003
ジフェンヒドラミン	15	25.0%	2	8.7%	18	19.4%	12	14.6%	0.257
アリルイソプロピルアセチル尿素	6	10.0%	0	0.0%	9	9.7%	4	4.9%	0.271
カフェイン製剤	3	5.0%	1	4.3%	4	4.3%	1	1.2%	0.595
その他の市販薬	4	6.7%	3	13.0%	8	8.6%	6	7.3%	0.798
有効成分不明	2	3.3%	2	8.7%	5	5.4%	6	7.3%	0.707

*濫用のおそれのある医薬品

表15. 救急搬送のエピソード別にみた市販薬症例の基本属性および飲酒状況 (n=258)

	過去1年以内				過去1年以前		一度もない		p-value ⁵
	入院あり		入院なし						
	(n=60)	(n=23)	(n=93)	(n=82)					
	n	%	n	%	n	%	n	%	
平均年齢（min-max）	24.4	(8.5)	28.2	(12.3)	31.5	(11.1)	29.2	(13.1)	0.002
年代									0.022
10代	21	35.0%	6	26.1%	11	11.8%	25	30.5%	
20代	27	45.0%	10	43.5%	35	37.6%	25	30.5%	
30代	8	13.3%	2	8.7%	28	30.1%	19	23.2%	
40代	2	3.3%	2	8.7%	11	11.8%	8	9.8%	
50代	2	3.3%	3	13.0%	7	7.5%	3	3.7%	
60代以上	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	2	2.4%	
性別									0.406
女性	46	76.7%	14	63.6%	63	67.7%	61	74.4%	
男性	13	21.7%	8	36.4%	30	32.3%	21	25.6%	
その他	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
現在の就労状況									0.714
有職	12	20.0%	7	30.4%	20	21.5%	25	30.5%	
無職	47	78.3%	16	69.6%	71	76.3%	55	67.1%	
不明	1	1.7%	0	0.0%	2	2.2%	2	2.4%	
飲酒頻度									0.334
0日（飲んでいない）	34	56.7%	11	47.8%	50	54.3%	48	58.5%	
1～2日	5	8.3%	1	4.3%	4	4.3%	1	1.2%	
3～5日	2	3.3%	0	0.0%	4	4.3%	2	2.4%	
6～9日	0	0.0%	1	4.3%	2	2.2%	2	2.4%	
10～19日	3	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
20～24日	0	0.0%	1	4.3%	2	2.2%	1	1.2%	
毎日	3	5.0%	3	13.0%	5	5.4%	5	5.4%	
不明	13	21.7%	6	26.1%	25	27.2%	24	29.3%	
主として飲んでいる酒類									0.062
一度も飲んでいない	20	34.5%	7	33.3%	31	34.1%	39	47.6%	
ビール・発泡酒	6	10.3%	0	0.0%	3	3.3%	2	2.4%	
日本酒	0	0.0%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	
ワイン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
蒸留酒（焼酎、ウイスキー、テキーラなど）	1	1.7%	2	9.5%	5	5.5%	1	1.2%	
酎ハイ・サワー（7%未満）	1	1.7%	2	9.5%	5	5.5%	4	4.9%	
酎ハイ・サワー（7%以上のストロング系）	7	12.1%	1	4.8%	12	13.2%	7	8.5%	
その他の酒	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.4%	
不明	22	37.9%	8	38.1%	35	38.5%	27	32.9%	

表16. 救急搬送のエピソード別にみた市販薬症例の受診経緯および診断状況 (n=258)

	過去1年以内				過去1年以 前		一度もない		p-value ⁵
	入院あり (n=60)		入院なし (n=23)		(n=93)		(n=82)		
	n	%	n	%	n	%	n	%	
受診経緯									
本人の意向	17	28.3%	3	13.0%	13	14.0%	26	31.7%	0.018
家族の勧め	27	45.0%	7	30.4%	26	28.0%	36	43.9%	0.072
他の医療機関からの紹介	33	55.0%	12	52.2%	41	44.1%	41	50.0%	0.597
精神保健福祉センター・保健所からの紹介	5	8.3%	3	13.0%	5	5.4%	5	6.1%	0.585
学校からの紹介	2	3.3%	0	0.0%	4	4.3%	3	3.7%	0.795
司法機関（保護観察所、更生保護施設など）からの紹介	0	0.0%	0	0.0%	3	3.2%	1	1.2%	0.380
依存症回復施設（ダルクなど）からの紹介	2	3.3%	0	0.0%	5	5.4%	3	3.7%	0.671
非自発的入院から	2	3.3%	1	4.3%	3	3.2%	0	0.0%	0.397
その他	2	3.3%	3	13.0%	6	6.5%	5	6.1%	0.438
経緯不明	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0.619
現在の精神医学的状態									
(F1x.0) 急性中毒	14	23.3%	3	13.0%	6	6.5%	3	3.7%	0.001
(F1x.1) 有害な使用	30	50.0%	7	30.4%	38	40.9%	28	34.1%	0.205
(F1x.2) 依存症候群	40	66.7%	18	78.3%	66	71.0%	55	67.1%	0.711
(F1x.3) 離脱状態	5	8.3%	0	0.0%	1	1.1%	2	2.4%	0.055
(F1x.4) せん妄を伴う離脱状態	2	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.084
(F1x.5) 精神病性障害	0	0.0%	1	4.3%	4	4.3%	4	4.9%	0.412
(F1x.6) 健忘症候群	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	1.2%	0.541
(F1x.7) 残遺性障害・遅発性精神病性障害	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0.619
(F1x.8) 他の精神および行動の障害	1	1.7%	1	4.3%	2	2.2%	0	0.0%	0.441
物質関連障害以外の併存精神障害									
F0: 症状性を含む器質性精神障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
F2: 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	2	3.3%	1	4.3%	7	7.5%	2	2.4%	0.411
F3: 気分障害	23	38.3%	4	17.4%	45	48.4%	28	34.1%	0.032
F4: 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	23	38.3%	4	17.4%	18	19.4%	20	24.4%	0.047
F5: 生理的障害及び身体的要因に関連した精神障害	2	3.3%	0	0.0%	4	4.3%	2	2.4%	0.726
F6: 成人の人格及び行動の障害	12	20.0%	6	26.1%	10	10.8%	7	8.5%	0.055
F7: 知的障害（精神遅滞）	7	11.7%	3	13.0%	11	11.8%	9	11.0%	0.994
F8: 心理的発達の障害	22	36.7%	1	4.3%	19	20.4%	22	26.8%	0.013
F9: 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	19	31.7%	2	8.7%	11	11.8%	12	14.6%	0.006
いずれも該当しない	2	3.3%	4	17.4%	10	10.8%	13	15.9%	0.094

表17. 救急搬送のエピソード別にみた市販薬症例の乱用に関連する項目 (n=258)

	過去1年以内				過去1年		一度もない		p-value ⁵
	入院あり		入院なし		以前				
	(n=60)		(n=23)		(n=93)		(n=82)		
	n	%	n	%	n	%	n	%	
乱用をはじめた心理社会的な背景（きっかけ）									
家族関係（親との不仲、ネグレクト、虐待なども含む）	27	45.0%	11	47.8%	43	46.2%	29	35.4%	0.448
友人関係（いじめ、仲間外れなどを含む）	26	43.3%	9	39.1%	19	20.4%	25	30.5%	0.019
学校でのトラブル（成績不振、教員とのトラブルなど）	13	21.7%	6	26.1%	10	10.8%	14	17.1%	0.179
仕事上のトラブル	9	15.0%	4	17.4%	14	15.1%	18	22.0%	0.620
その他の背景	15	25.0%	3	13.0%	18	19.4%	10	12.2%	0.222
不明	3	5.0%	1	4.3%	12	12.9%	9	11.0%	0.319
乱用に関する情報（情報源）									
インターネット（ツイッター、LINEなどのSNS）	36	60.0%	8	34.8%	28	30.1%	20	24.4%	<0.001
インターネット（SNS以外の動画サイトやホームページなど）	15	25.0%	7	30.4%	20	21.5%	10	12.2%	0.126
友人・知人（学校、職場関係）	4	6.7%	4	17.4%	6	6.5%	5	6.1%	0.291
友人・知人（学校・職場以外）	9	15.0%	3	13.0%	12	12.9%	7	8.5%	0.674
その場限りの人から	2	3.3%	1	4.3%	3	3.2%	4	4.9%	0.943
家族（親、きょうだいなど）から	2	3.3%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0.088
その他の情報源	1	1.7%	0	0.0%	2	2.2%	1	1.2%	0.886
不明	16	26.7%	8	34.8%	41	44.1%	45	54.9%	0.008
乱用に期待していた効果・作用									
多幸感	12	20.0%	6	26.1%	12	12.9%	10	12.2%	0.255
フワフワ・浮遊感	19	31.7%	7	30.4%	21	22.6%	14	17.1%	0.191
気分あがる・テンション上がる	17	28.3%	11	47.8%	25	26.9%	17	20.7%	0.081
幻覚がみえる	10	16.7%	1	4.3%	4	4.3%	4	4.9%	0.019
集中力が高くなる	6	10.0%	2	8.7%	10	10.8%	14	17.1%	0.477
リラックス・落ち着く	22	36.7%	7	30.4%	30	32.3%	23	28.0%	0.749
気持ちの落ち込みが改善する	28	46.7%	13	56.5%	41	44.1%	31	37.8%	0.405
眠くなる	7	11.7%	3	13.0%	13	14.0%	5	6.1%	0.390
眠気がなくなる	2	3.3%	1	4.3%	0	0.0%	2	2.4%	0.353
性的な快感や興奮	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	1.2%	0.809
やせる・食欲がなくなる	4	6.7%	1	4.3%	3	3.2%	0	0.0%	0.152
食欲がます	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	0.541
疲れがとれる	2	3.3%	1	4.3%	7	7.5%	3	3.7%	0.590
身体の痛みが和らぐ	3	5.0%	1	4.3%	5	5.4%	2	2.4%	0.794
その他	12	20.0%	0	0.0%	7	7.5%	13	15.9%	0.025
不明	4	6.7%	4	17.4%	16	17.2%	13	15.9%	0.281
市販薬の入手方法									
薬局・ドラッグストアなどの実店舗で購入	52	86.7%	18	78.3%	59	63.4%	60	73.2%	0.016
インターネットで購入（国内サイト）	23	38.3%	2	8.7%	19	20.4%	13	15.9%	0.004
インターネットで購入（海外からの個人輸入）	7	11.7%	1	4.3%	4	4.3%	2	2.4%	0.100
友人・恋人・知人から譲り受けた	6	10.0%	5	21.7%	7	7.5%	3	3.7%	0.042
家の常備薬	1	1.7%	0	0.0%	2	2.2%	2	2.4%	0.895
万引き	2	3.3%	1	4.3%	6	6.5%	2	2.4%	0.596
その他の方法	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.346
不明	6	10.0%	4	17.4%	25	26.9%	14	17.1%	0.067

別添. 調査システムの画面

0%

全国の依存症専門医療機関を受診する患者における
市販薬乱用の実態に関する研究

(プロジェクト名: OTC-drugs survey 2024)

登録期間: 2024年6月1日 (土) ~ 7月31日 (水)

対象となる患者様:

2024年4月1日から2024年5月31日までの2ヶ月間に、貴院で外来あるいは入院で治療を受けた、アルコール以外の精神作用物質使用による精神および行動の障害 (ICD-10 : F1x) に該当する16歳以上かつ、主たる薬物が市販薬と判断される患者様

※主たる薬物の定義:
「現在の精神的症状に関して、臨床的に最も関連が深いと思われる薬物」と定義します。

対象とはならない患者様:

調査対象となることを拒否することを主治医に申し出た患者様、調査時点で15歳以下の患者様

注意事項

前の画面に戻りたい時は、画面下部の「戻る」ボタンを利用してください。
(ブラウザの戻るボタンを使うと、エラーになります)

登録画面へ進む

お問い合わせ

国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部
研究責任者: 嵯峨 啓也 takuya@mcrc.go.jp
担当研究者: 北本 啓彦、平谷 龍貴士
〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1
(TEL: 042-346-1909)

アンケートシステムに関するお問い合わせ

※アンケート画面に集めない等のシステムに関するお問い合わせ先です。
You46アンケートシステム運営事務局
(株式会社マイ、ビジネスサービス、内) 担当: 塩井
メール: info@mb2000.com

※このページはSSLによって暗号化されています。

Copyright © OTC-drugs survey 2024 All rights reserved.

前のページに戻る

0%

担当医師名

※ 必須

担当医師メールアドレス

※ 必須

メールアドレス形式で入力して下さい

同意の取得 (該当する方にチェックを入れてください)

※ 必須

☐ 一つだけ選択してください。

☐ オプトアウト

☐ 文書による説明+口頭同意

前へ

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

Copyright © OTC-drugs survey 2024 All rights reserved.

- 52 -

14%

【Q1】ここでは、当該患者の基本属性について入力してください。

(1) 年齢（調査時点における年齢）

歳

(2) 性別（診療録上で登録されている性別）

- ☐ 女性
☐ 男性
☐ その他

(3) 現在の就労状況

- ☐ 有職（常勤、非常勤・パートを問わず）
☐ 無職（学生、主婦もこちらを選んでください）
☐ 不明

前へ

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

Copyright © OTC-drugs survey 2024 All rights reserved.

75%

【Q2】ここでは、当該患者が主として乱用していた市販薬の有効成分および製品名をお聞かせします。

※ ます、主として乱用していた市販薬の有効成分にチェックを入れてください。（複数選択可）

※ 有効成分にチェックをいれますと、具体的な製品名が表示されますので、対象となる製品をお選びください。

※ 乱用していた平均的な使用量（錠数）がわかれば、製品名の後ろにご記入ください。

※ 必須

- ☐ 1) 有効成分にジヒドロコデインを含む市販薬
https://www.plamedplus.co.jp/ingrid025.html
- ☐ 2) 有効成分にコデインを含む市販薬
https://www.plamedplus.co.jp/ingrid101.html
- ☐ 3) 有効成分にプロモバレルール尿素を含む市販薬
https://www.plamedplus.co.jp/ingrid000.html
- ☐ 4) 有効成分にデキストロメトルファンを含む市販薬
https://www.plamedplus.co.jp/ingrid020.html
- ☐ 5) 有効成分にジフェンドラミンを含む市販薬
https://www.plamedplus.co.jp/ingrid002.html
- ☐ 6) 有効成分にアリルイソプロピルアセチル尿素を含む市販薬
https://www.plamedplus.co.jp/ingrid006.html
- ☐ 7) カフェイン製剤（カフェイン製剤）
https://www.plamedplus.co.jp/ingrid077.html
- ☐ 8) その他の市販薬
- ☐ 9) 有効成分不明

「1) ジヒドロコデインを含む市販薬」を選択された方は、製品名と使用量を教えてください

※ 必須

※ ※シロップなどの液剤の場合は、本数をご記入ください。

☐ エスエスブロン錠（新エスエスブロン錠エース） 錠

☐ バブロンゴールドA（バブロンSゴールドW） 錠

☐ 新トニン吸止め液 錠

☐ 新ルル（A錠s、Aゴールドs）、ルルアタック（EX、EXプレミアム、NX、NXプレミアム、CX、CXプレミアム、吸エース） 錠

☐ ペンザブロック（S、Sプレミアム、L、Lプレミアム、IP、IPプレミアム） 錠

☒ その他 錠

☐ 製品名不明 錠

「その他」を選択した方は製品名を入力してください

「2) コデインを含む市販薬」を選択された方は、製品名と使用量を教えてください

※ 必須

※ ※シロップなどの液剤の場合は、本数をご記入ください。

☐ アネトン（アネトンセキ止め液、アネトンセキ止め） 錠

☐ 製品名不明 錠

「3) プロモバレルール尿素を含む市販薬」を選択された方は、製品名と使用量を教えてください

※ 必須

※ ※シロップなどの液剤の場合は、本数をご記入ください。

☐ ウット 錠

☐ ナロン錠（ナロンエースT） 錠

☒ その他 錠

☐ 製品名不明 錠

「その他」を選択した方は製品名を入力してください

「4) デキストロメトルファンを含む市販薬」を選択された方は、製品名と使用量を教えてください

● 必須

※ シシロップなどの薬剤の場合は、本数をご記入ください。

- | | |
|--|------------------------|
| ☐ メジコンせき止めP10 | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ 新コンタック（新コンタックかぜE X持続性、新コンタックかぜ総合など） | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ エスエスプロン液L | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ バブロンSα（錠、顆粒、散粒） | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ エスタック総合感冒 | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ ペンザエースA | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ バイロンPL錠ゴールド | <input type="text"/> 錠 |
| ☒ その他 | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ 製品名不明 | <input type="text"/> 錠 |

「その他」を選択した方は製品名を入力してください

「5) ジフェンヒドラミンを含む市販薬」を選択された方は、製品名と使用量を教えてください

● 必須

※ シシロップなどの薬剤の場合は、本数をご記入ください。

- | | |
|---|------------------------|
| ☐ レスタミン（レスタミンコーワ錠散粒など） | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ ドリエル（ドリエルEX） | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ トラベルミン | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ ドリーミンZ | <input type="text"/> 錠 |
| ☒ その他 | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ 製品名不明 | <input type="text"/> 錠 |

「その他」を選択した方は製品名を入力してください

「6) アリルイソプロピルアセチル尿素を含む市販薬」を選択された方は、製品名と使用量を教えてください

● 必須

※ シシロップなどの薬剤の場合は、本数をご記入ください。

- | | |
|--|------------------------|
| ☐ イブ（イブA錠、イブA錠EX、イブクイック筋痛薬、イブクイック筋痛薬DX） | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ 新セデス錠（セデス・ハイ、ハイプロテクト、ハイD、V、キュア） | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ パファリンプレミアム | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ ロキソニンSプレミアム | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ ディバシオIPα | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ ノーシンピュア | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ リコリプラスエースα | <input type="text"/> 錠 |
| ☒ その他 | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ 製品名不明 | <input type="text"/> 錠 |

「その他」を選択した方は製品名を入力してください

「7) カフェイン製剤（カフェイン製剤）」を選択された方は、製品名と使用量を教えてください

● 必須

※ シシロップなどの薬剤の場合は、本数をご記入ください。

- | | |
|--|------------------------|
| ☐ エスタロンモカ錠（エスタロンモカ12） | <input type="text"/> 錠 |
| ☒ その他 | <input type="text"/> 錠 |
| ☐ 製品名不明 | <input type="text"/> 錠 |

「その他」を選択した方は製品名を入力してください

「8) その他の市販薬」を選択した方は製品名と使用量を入力してください

※ シシロップなどの薬剤の場合は、本数をご記入ください。

製品名	
使用量	錠

前へ

次へ

※ このページは読取によって暗号化されています。

Copyright © OTC drugs survey 2014 All rights reserved

42%

【Q3】ここでは、当該患者に関する現在の精神医学的状态についてお答えください。

(1) 現在、当該患者は、ICD-10 分類における F1 診断「精神作用物質使用による精神および行動の障害」のいずれの下位診断に該当しますか? 該当する診断をすべてお選びください。

- | | |
|---|--|
| ☐ (F1x 0) 急性中毒 | ☐ (F1x 5) 精神病性障害 |
| ☐ (F1x 1) 有害な使用 | ☐ (F1x 6) 健忘症候群 |
| ☐ (F1x 2) 依存症候群 | ☐ (F1x 7) 残遺性障害・遅発性精神病性障害 |
| ☐ (F1x 3) 離脱状態 | ☐ (F1x 8) 他の精神および行動の障害 |
| ☐ (F1x 4) せん妄を伴う離脱状態 | |

(2) 当該患者の物質関連障害以外の併存精神障害に関して、該当する ICD-10 診断をすべてお選びください。

- | | |
|---|---|
| ☐ F0: 症状性を含む器質性精神障害 | ☐ F6: 成人の人格及び行動の障害 |
| ☐ F2: 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 | ☐ F7: 知的障害 (精神遅滞) |
| ☐ F3: 気分障害 | ☐ F8: 心理的発達障害 |
| ☐ F4: 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 | ☐ F9: 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 |
| ☐ F5: 生理的障害及び身体的要因に関連した精神障害 | ☐ いずれも該当しない |

前へ

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

Copyright © OTC-drugs survey 2024 All rights reserved.

Q4

【Q4】当該患者が貴院を受診することになった経緯について該当する項目をすべてお選びください。

- | | |
|--|--|
| ☐ 本人の意向 | ☐ 司法機関（保護観察所、更生保護施設など）からの紹介 |
| ☐ 家族の勧め | ☐ 依存症回復施設（ダルクなど）からの紹介 |
| ☐ 他の医療機関からの紹介 | ☐ 非自発的入院から |
| ☐ 精神保健福祉センター・保健所からの紹介 | ☒ その他 |
| ☐ 学校からの紹介 | ☐ 経緯不明 |

「その他」を選択した方は具体的に入力してください。

【Q5】当該患者が、市販薬の乱用をはじめた心理社会的な背景（きっかけ）のうち、当てはまる項目をすべてお選びください。

- | | |
|--|--|
| ☐ 家族関係（親との不仲、ネグレクト、虐待なども含む） | ☐ 仕事上のトラブル |
| ☐ 友人関係（いじめ、仲間外れなどを含む） | ☒ その他の背景 |
| ☐ 学校でのトラブル（成績不振、教員とのトラブルなど） | ☐ 不明 |

「その他の背景」を選択した方は具体的に入力してください。

【Q6】当該患者は、市販薬の乱用に関する情報（情報源）をどこから得ていましたか？当てはまる項目をすべてお選びください。

- | | |
|--|---|
| ☐ インターネット（ツイッター、LINEなどのSNS） | ☐ その場限りの人から |
| ☐ インターネット（SNS以外の動画サイトやホームページなど） | ☐ 家族（親、きょうだいなど）から |
| ☐ 友人・知人（学校・職場関係） | ☒ その他の情報源 |
| ☐ 友人・知人（学校・職場以外） | ☐ 不明 |

「その他の情報源」を選択した方は具体的に入力してください。

【Q7】当該患者が、市販薬の乱用に期待していた効果・作用のうち、当てはまる項目をすべてお選びください。

- | | |
|---|---|
| ☐ 多幸感 | ☐ 眠気がなくなる |
| ☐ フワフワ・浮遊感 | ☐ 性的な快感や興奮 |
| ☐ 気分あがる・テンション上がる | ☐ やせる・食欲がなくなる |
| ☐ 幻覚がみえる | ☐ 食欲がまず |
| ☐ 集中力が高くなる | ☐ 疲れがとれる |
| ☐ リラックス・落ち着く | ☐ 身体の痛みが和らぐ |
| ☐ 気持ちの落ち込みが改善する | ☒ その他 |
| ☐ 眠くなる | ☐ 不明 |

「その他」を選択した方は具体的に入力してください。

【Q8】当該患者が乱用に用いていた市販薬の入手方法のうち、当てはまる項目をすべてお選びください。

- | | |
|--|--|
| ☐ 薬局・ドラッグストアなどの実店舗で購入 | ☐ 家の常備薬 |
| ☐ インターネットで購入（国内サイト） | ☐ 方引き |
| ☐ インターネットで購入（海外からの個人輸入） | ☒ その他の方法 |
| ☐ 友人・恋人・知人から譲り受けた | ☐ 不明 |

「その他の方法」を選択した方は具体的に入力してください。

【Q9】当該患者には、市販薬の過量投薬（オーバードーズ）による救急医療機関への救急搬送を経験したエピソードがありますか？
※処方薬、違法薬物などを同時に過量投薬している場合でも、市販薬が過量投薬の対象となっていれば、エピソードありとしてください。

- | | |
|--|--------------------------------|
| ☐ 過去1年以内にあり（入院を伴うエピソード） | ☐ 一度もない |
| ☐ 過去1年以内にあり（入院を伴わないエピソード） | ☐ 不明 |
| ☐ 過去1年以内にはないが、過去1年以上前にあり | |

前へ

次へ

71%

【Q10】最後に当該患者の飲酒状況についてお答えください。

(1) 過去1ヶ月以内の飲酒頻度をお答えください。

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| ☐ 0日（飲んでいない） | ☐ 10～19日 |
| ☐ 1～2日 | ☐ 20～24日 |
| ☐ 3～5日 | ☐ 毎日 |
| ☐ 6～9日 | ☐ 不明 |

(2) 主として飲んでいる酒類をお答えください。

- | | |
|--|--|
| ☐ 一度も飲んでいない | ☐ 酎ハイ・サワー（7%未満） |
| ☐ ビール・発泡酒 | ☐ 酎ハイ・サワー（7%以上のストロング系） |
| ☐ 日本酒 | ☐ その他の酒 |
| ☐ ワイン | ☐ 不明 |
| ☐ 蒸留酒（焼酎、ウイスキー、テキーラなど） | |

前へ

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

Copyright © OTC-drugs survey 2024 All rights reserved.

市販薬の意図的摂取に関する問い合わせの集計及び解析業務

1. 目的

日本中毒情報センターに問い合わせのあった市販薬の意図的摂取の事故を集計・解析することにより、市販薬の意図的摂取の事故発生状況を明らかにする。

2. 方法

1) 対象

2019 年～2023 年の 5 年間に日本中毒情報センター・中毒 110 番電話相談に問い合わせのあった市販薬の意図的摂取事例 1,360 件を対象とした。

なお、「自殺企図・自傷行為」、「乱用」、「詳細は不明だが意図的摂取」と聴取した事例を「意図的摂取」、それ以外を「不慮の事故」とした。

2) 集計・解析項目

以下の項目について集計を行った。

- (1) 問い合わせ件数(図 1)
- (2) 問い合わせ者の内訳(図 2)
- (3) 患者年齢(図 3-1、図 3-2)
- (4) 患者性別(図 4)
- (5) 発生場所(図 5)
- (6) 発生日時(図 6-1、図 6-2、図 6-3)
- (7) 薬効分類別 問い合わせ件数(図 7)
- (8) 薬効分類別 全問い合わせに対する意図的摂取の割合(図 8)
- (9) 製品別集計(表 1、Excel ファイル)

- ・ 分類:薬効分類・成分
- ・ 製品名:聴取した製品名
- ・ 製造販売会社:JAPIC 医療用・一般用医薬品集、メーカーweb サイト、販売サイトにて確認
- ・ 剤型:JAPIC 医療用・一般用医薬品集、メーカーweb サイト、販売サイトにて確認
- ・ 包装単位:JAPIC 医療用・一般用医薬品集、メーカーweb サイト、販売サイトにて確認
- ・ 濫用等のおそれのある医薬品:「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則第十五条の二の規定に基づき濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品」(平成 26 年厚生労働省告示第 252 号)
- ・ 成分:JAPIC 医療用・一般用医薬品集、メーカーweb サイト、販売サイトにて確認
1 錠(カプセル、包、mL)あたりの mg(または%)として表示
- ・ 問い合わせ件数:該当製品の意図的摂取の件数/不慮の事故の件数/合計
意図的摂取の割合:意図的摂取/合計で算出

- ・ 症状:意図的摂取のうち問い合わせまでに症状が出現していた件数

医療機関から聴取した症状とのべ件数

- ・ 摂取箱数別 件数:摂取した箱数別の件数

摂取箱数は「摂取量(錠、カプセル、包)÷ 最大包装単位」で算出

ただし、問い合わせ時点で箱数を聴取している場合は、聴取した箱数

- ・ 患者年齢層:10-14 歳、15-19 歳、20-29 歳、30 歳以上、不明に分類

10 歳代で正確な年齢が不明な場合は「10 歳代」とした

(10) 問い合わせ件数上位製品 年次推移・患者年齢・意図摂取の割合(図 9-1、図 9-2、図 9-3)

(11) 問い合わせ件数上位製品 症状(表 2)

(12) 問い合わせ件数上位製品 摂取箱数(表 3)

(13) 事例(表 4-1、表 4-2、表 4-3)

3. 結果

(1) 問い合わせ件数

図1 に市販薬の意図的摂取に関する問い合わせ件数の年次推移を示す。2019 年以降増加傾向であり、5 年間の総数は 1,360 件であった。

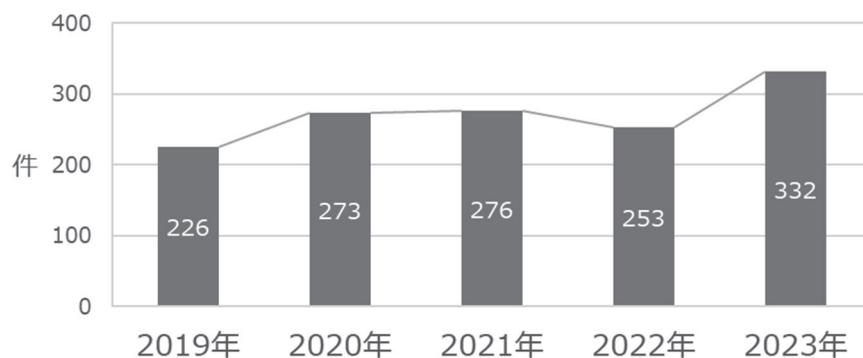


図1 問い合わせ件数

(2) 問い合わせ者の内訳

図2 に5年間の問い合わせ 1,360 件における問い合わせ者の内訳を示す。医療機関からの問い合わせが最も多く 965 件(71%)、次いで一般 350 件(26%)、学校 20 件(1.5%)、その他(消防、高齢者施設、障がい者施設など) 25 件(1.8%)であった。

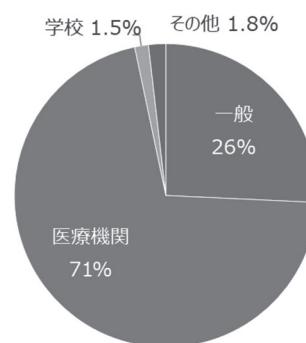


図2 問い合わせ者の内訳

(3) 患者年齢

図3-1 に患者年齢を聴取した 1,303 件について受信年別の患者年齢分布を、図3-2 に患者年齢の箱ひげ図を示す。患者年齢は 2019 年(中央値[IQR]、21 歳[17-30 歳])、2020 年(20 歳[17-28 歳])、2021 年(19 歳[15-25 歳])と低年齢化し、2022 年(19 歳[15-25.5 歳])、2023 年(19 歳[15-27 歳])は横ばいであった。最小年齢は 2019 年、2021 年、2022 年が 10 歳、2020 年、2023 年が 11 歳であった。5 年間では小学生が 12 件(10 歳 3 件、11 歳 8 件、12 歳で小学生と聴取した 1 件)、中学生が 224 件(12 歳で小学生と聴取した例を除く 32 件、13 歳 71 件、14 歳 117 件、15 歳で中学生と聴取した 4 件)であった。

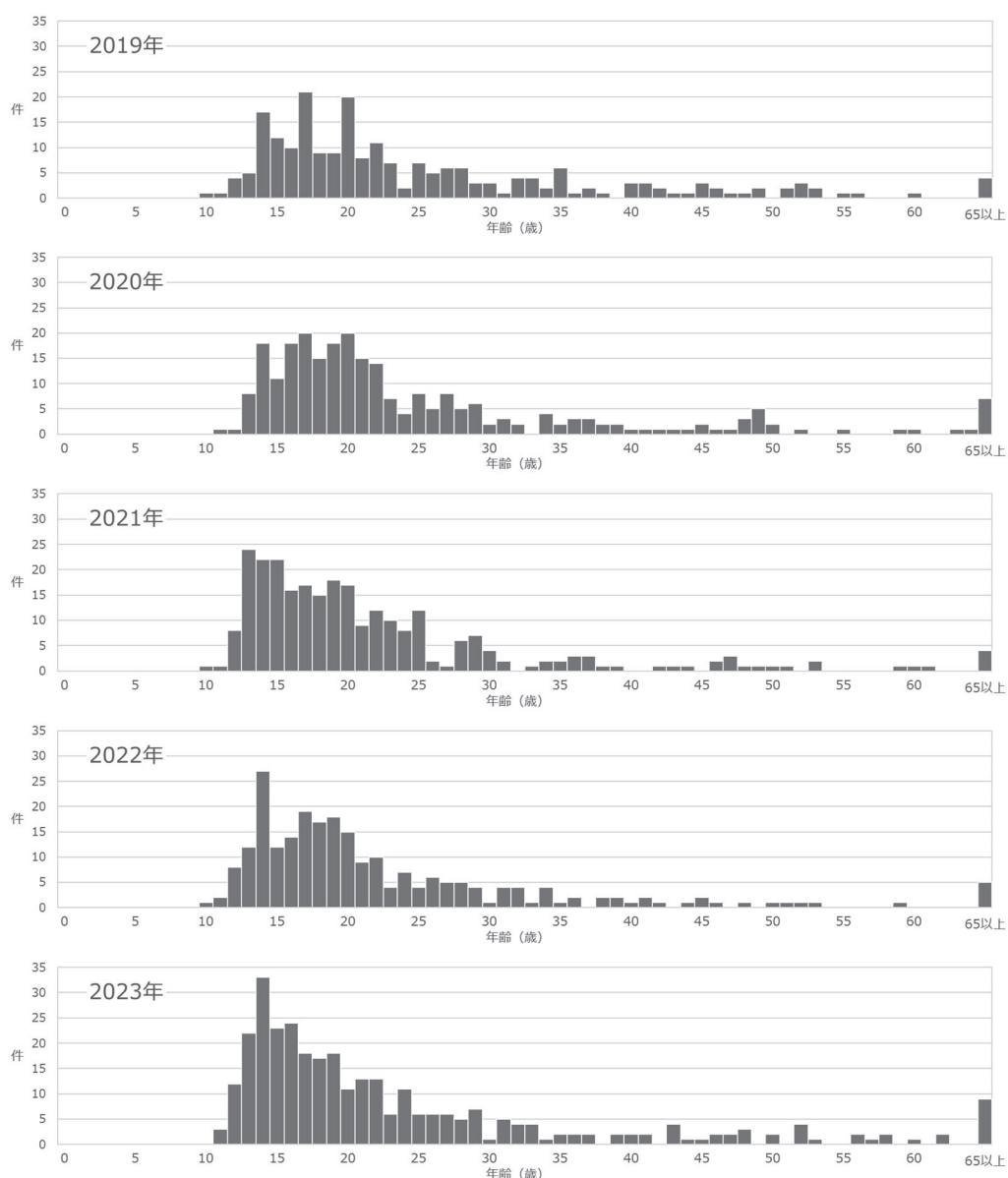


図3-1 患者年齢分布

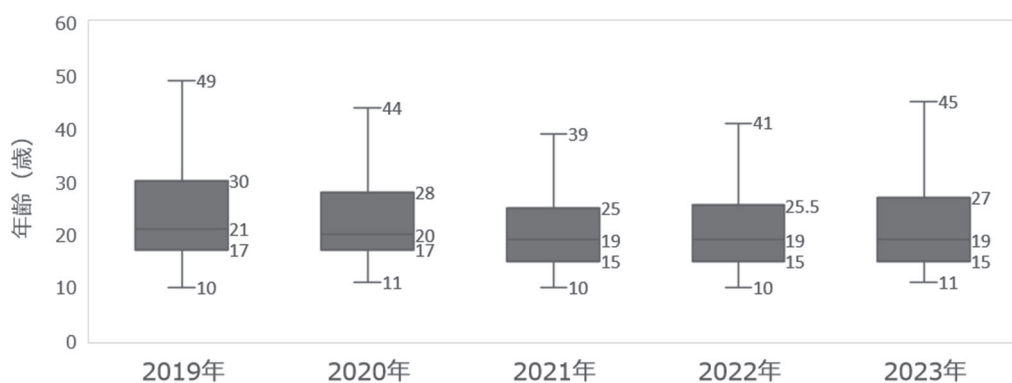


図3-2 患者年齢

(4) 患者性別

図4に患者性別の内訳を示す。あわせて患者年齢層が判明した事例について18歳以下および19歳以上での患者性別の内訳を示す。全体では女性が76%を占めた。18歳以下では19歳以上と比較し、女性の割合が高かった。

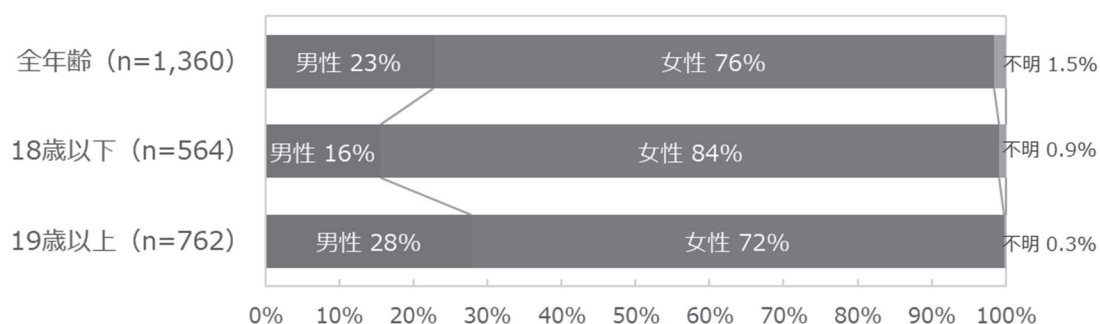


図4 患者性別

(5) 発生場所

図5に事故発生場所(どこで摂取したか)が判明した事例について、発生場所の内訳を示す。あわせて患者年齢層が判明した事例について、18歳以下および19歳以上での発生場所の内訳を示す。居住内で摂取した事例が9割を占めた。18歳以下では学校での摂取が多かった。

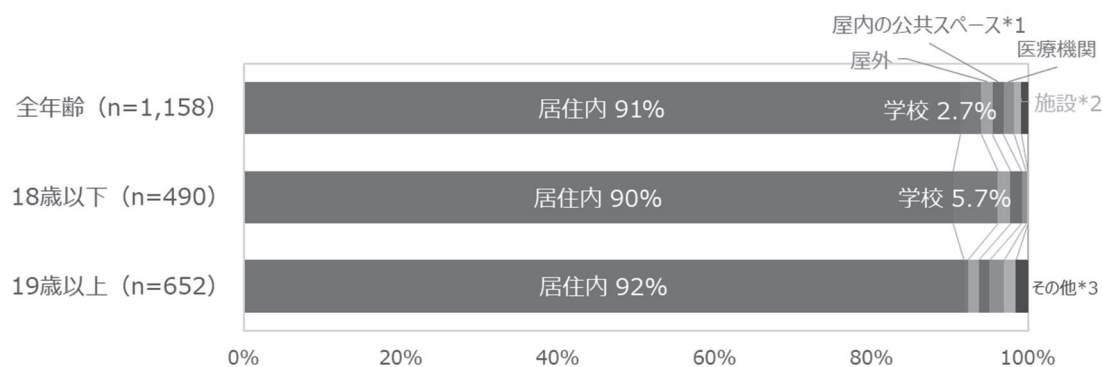


図5 発生場所

*1 屋内の公共スペース：ホテル、駅、店舗など
 *2 施設：高齢者施設、障がい者施設
 *3 その他：仕事場、車内など

(6) 発生日時

図 6-1 に事故発生日が判明した事例について、全年齢(n=1,314)、18 歳以下(n=549)、19 歳以上(n=739)での発生月を示す。全年齢では 1 月、9 月の件数が多かった。18 歳以下では 19 歳以上と比べ月別の変動が大きく、1 月、5 月、9 月、11 月の件数が多かった。

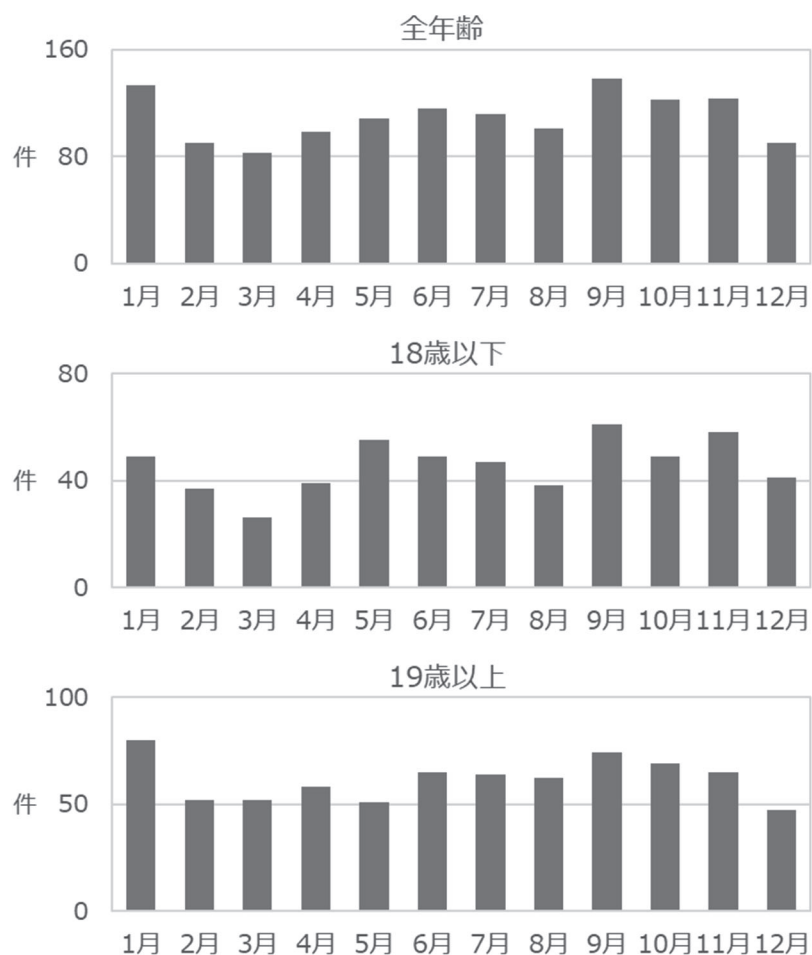


図6-1 発生月

図 6-2 に事故発生日が判明した事例について、全年齢(n=1,314)、18 歳以下(n=549)、19 歳以上(n=739)での発生日を示す。土日よりも平日に件数が多く、18 歳以下ではその傾向が顕著であった。

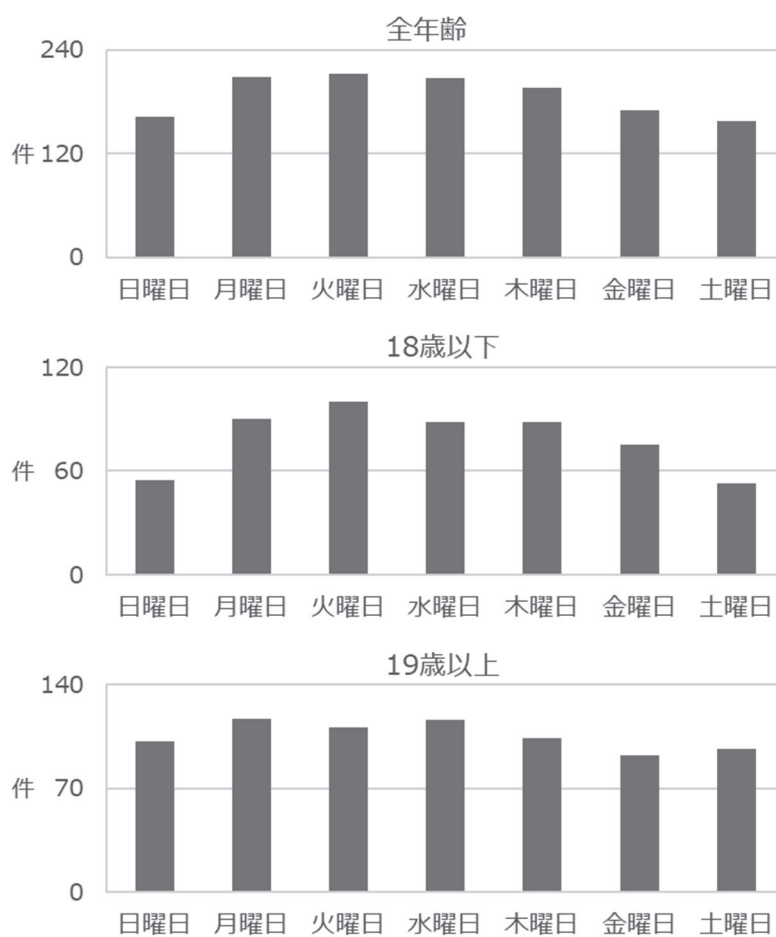


図6-2 発生日

図 6-3 に事故発生時刻が判明した事例について、全年齢(n=1,139)、18 歳以下(n=479)、19 歳以上(n=644)での発生時刻を示す。11 時台から 0 時台に件数が多かった。18 歳以下では 19 歳以上と比べ、朝 8 時台の件数が多かった。

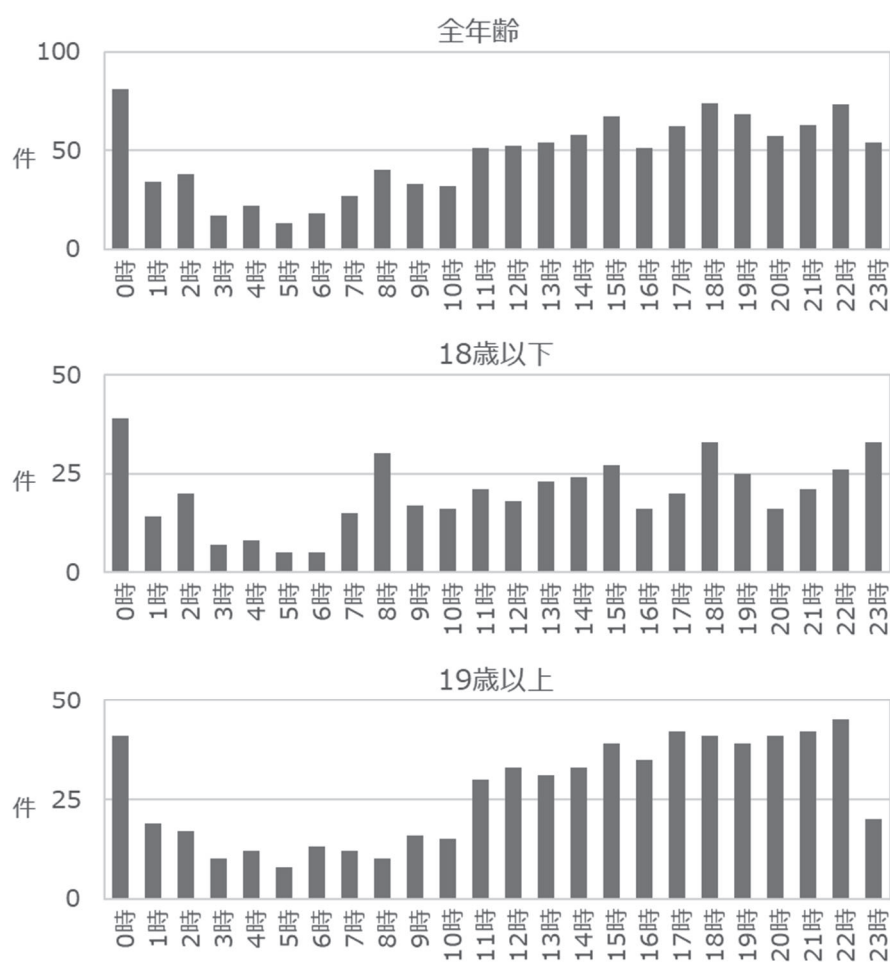


図6-3 発生時刻

(7) 薬効分類別 問い合わせ件数

図7に全年齢(n=1,360)、18歳以下(n=564)、19歳以上(n=762)での薬効分類別の問い合わせ件数の年次推移を示す。全年齢で問い合わせの多い製品群は、解熱鎮痛薬(5年間で391件)、鎮咳去痰薬(同280件)、かぜ薬(同277件)、催眠鎮静薬(同105件)、眠気防止薬(同87件)、アレルギー用薬(同84件)であった。そのうち、鎮咳去痰薬、かぜ薬、アレルギー用薬は増加傾向であった。18歳以下では鎮咳去痰薬およびアレルギー用薬の増加が顕著で、鎮咳去痰薬は2019年12件から2023年58件、アレルギー薬は2019年4件から2023年21件に増加した。

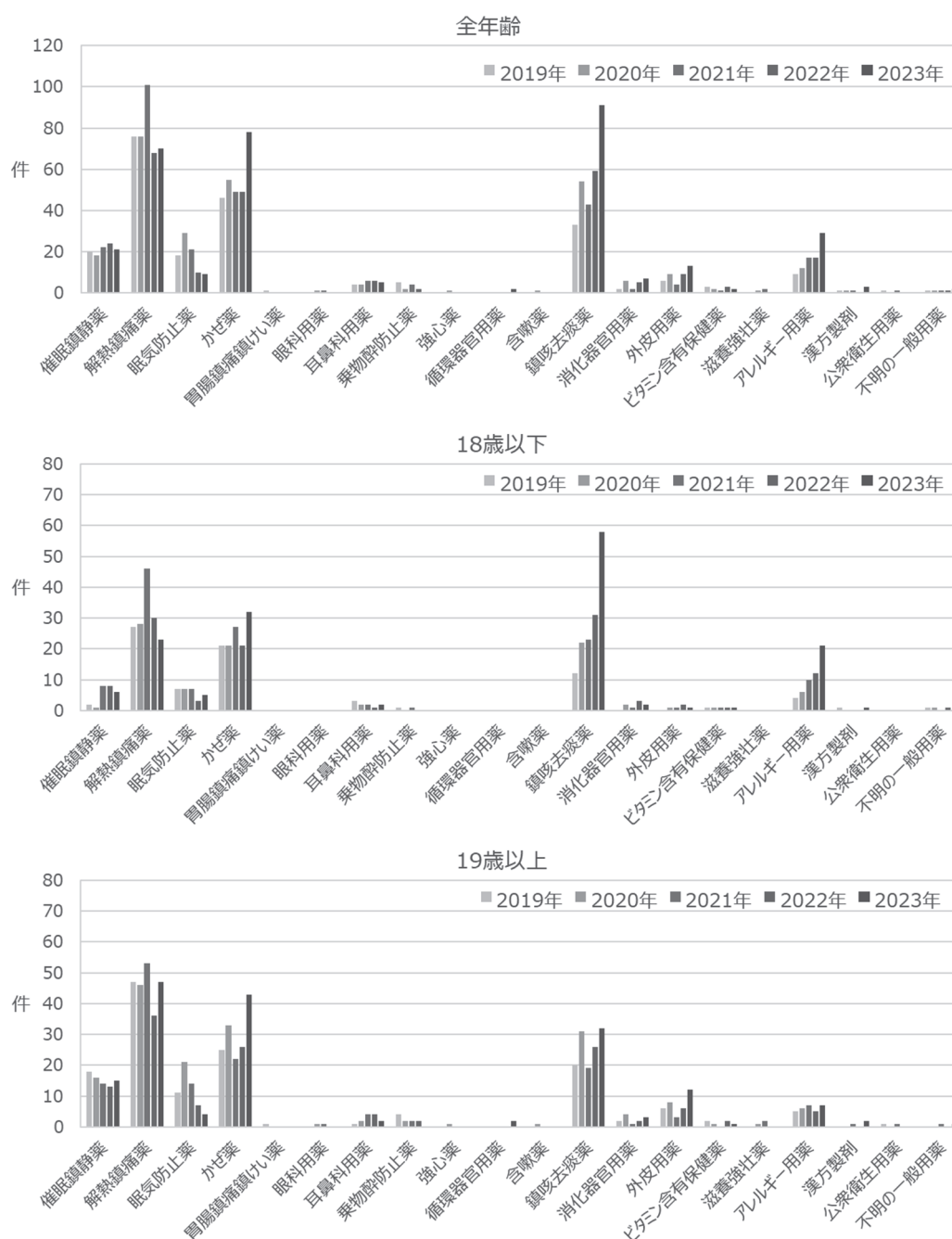


図7 薬効分類別 問い合わせ件数

(8) 薬効分類別 全問い合わせに対する意図的摂取の割合

意図的摂取されやすい製品群を明らかにするために、日本中毒情報センターへの全問い合わせ件数(意図的摂取+不慮の事故)に対する意図的摂取の割合を薬効分類間で比較した。

図8に薬効分類別の全問い合わせに対する意図的摂取の割合を示す。市販薬全体での意図的摂取の割合は0.09であった。薬効分類別の意図的摂取の割合は、眠気防止薬(0.81)、催眠鎮静薬(0.61)、アレルギー用薬(0.61)、鎮咳去痰薬(0.32)、かぜ薬(0.14)、解熱鎮痛薬(0.13)の順に高く、その他の製品群では0.09未満であった。

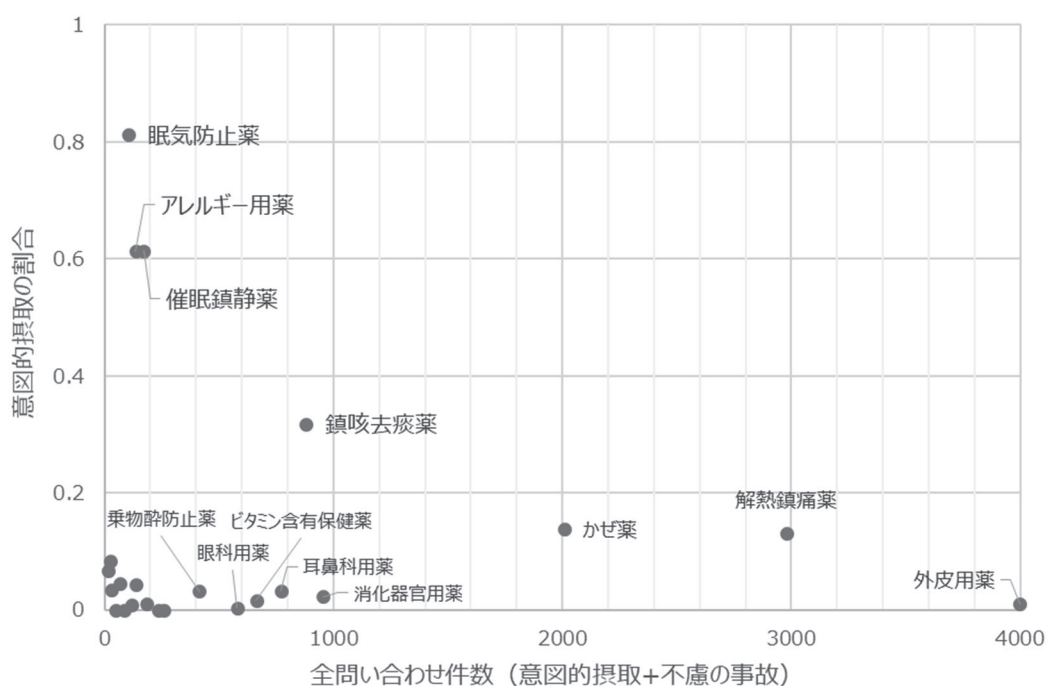


図8 薬効分類別 全問い合わせに対する意図的摂取の割合

(9) 製品別集計

表 1 に 5 年間に問い合わせがあった製品について、製品情報(剤型、包装単位、成分等)、問い合わせ件数、意図的摂取の割合、患者年齢層、摂取箱数、症状を集計した。

意図的摂取の問い合わせ件数が 5 年間で 20 件以上であったのは以下の 14 製品であった。

エスエスブロン錠(鎮咳去痰薬)*	162 件
イブ A 錠(解熱鎮痛薬)	79 件
メジコンせき止め錠 Pro(鎮咳去痰薬)	75 件
バファリン A(解熱鎮痛薬)	67 件
エスタロンモカ錠(眠気防止薬)	58 件
レスタミンコーワ糖衣錠(アレルギー用薬)	53 件
新ルルー A 錠 s(かぜ薬)*	48 件
パブロンゴールド A<錠>(かぜ薬)*	44 件
ウット(催眠鎮静薬)*	30 件
新コンタックせき止めダブル持続性(鎮咳去痰薬)	29 件
エスタロンモカ 12(眠気防止薬)	26 件
ドリエル(催眠鎮静薬)	26 件
ノーシンピュア(解熱鎮痛薬)	21 件
レスタミン U コーワ錠(アレルギー用薬)	20 件

*濫用等のおそれのある医薬品

(10) 問い合わせ件数上位製品 年次推移・患者年齢・意図的摂取の割合

図 9-1 に意図的摂取の件数が 20 件以上であった 14 製品について、問い合わせ件数の年次推移を示す。2021 年 8 月に発売されたメジコンせき止め錠 Pro が 2022 年 16 件、2023 年 58 件と急増した。また、レスタミンコーワ糖衣錠、新ルルー A 錠 s、パブロンゴールド A<錠>、レスタミンコーワ U 錠は増加傾向であった。

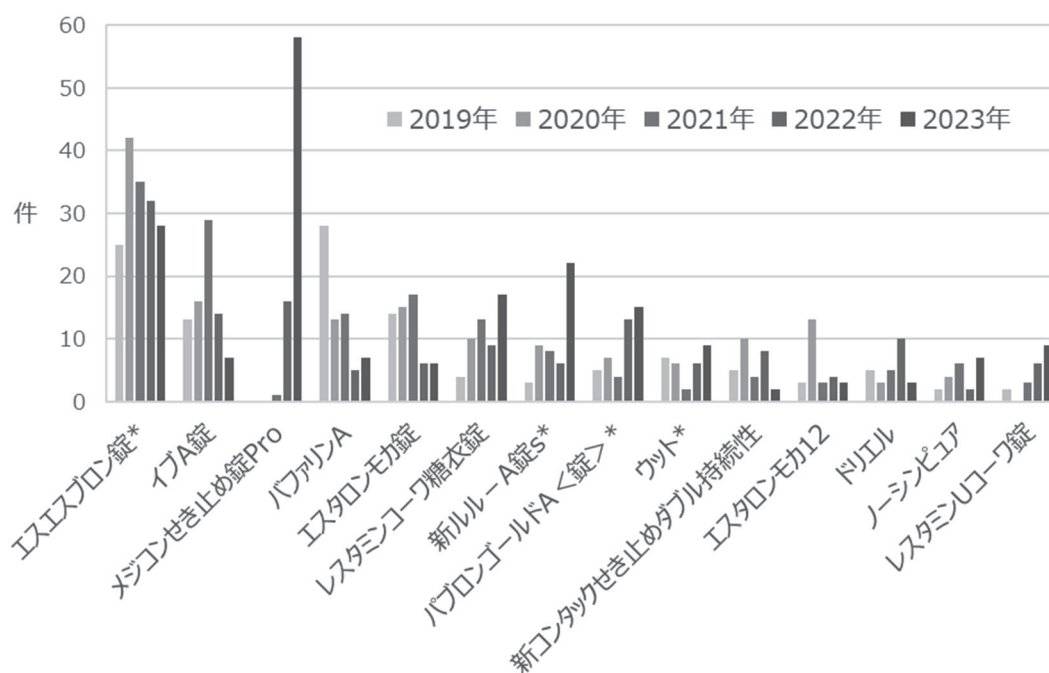


図9-1 問い合わせ件数上位製品 年次推移

*濫用等のおそれのある医薬品

図 9-2 に意図的摂取の件数が 20 件以上であった 14 製品について、患者年齢を箱ひげ図で示す。患者年齢の中央値が低い順に、レスタミンコーワ U 錠(14.5 歳)、ノーシンピュア(15 歳)、メジコンせき止め錠 Pro(17 歳)、レスタミンコーワ糖衣錠(17 歳)であった。

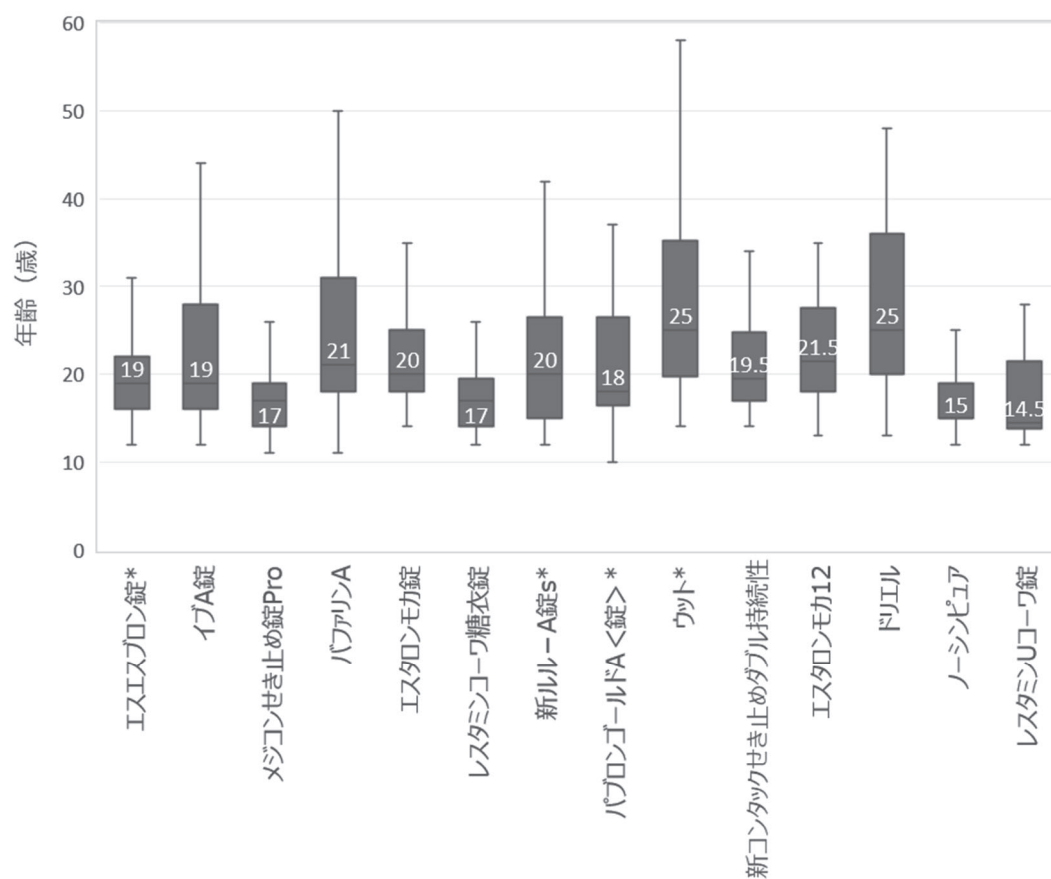


図9-2 問い合わせ件数上位製品 患者年齢

*濫用等のおそれのある医薬品

図 9-3 に意図的摂取の件数が 20 件以上であった 14 製品について、全問い合わせに対する意図的摂取の割合を示す。意図的摂取の割合は、エスエスブロン錠 (0.93)、エスタロンモカ錠 (0.91)、レスタミン U コーワ錠 (0.87)、メジコンせき止め錠 Pro (0.85)、レスタミンコーワ糖衣錠 (0.82)、ウット (0.77)、ドリエル (0.74)、エスタロンモカ 12 (0.74) で高く、「濫用等のおそれのある医薬品」に指定されていない製品でも高いことが明らかとなった。

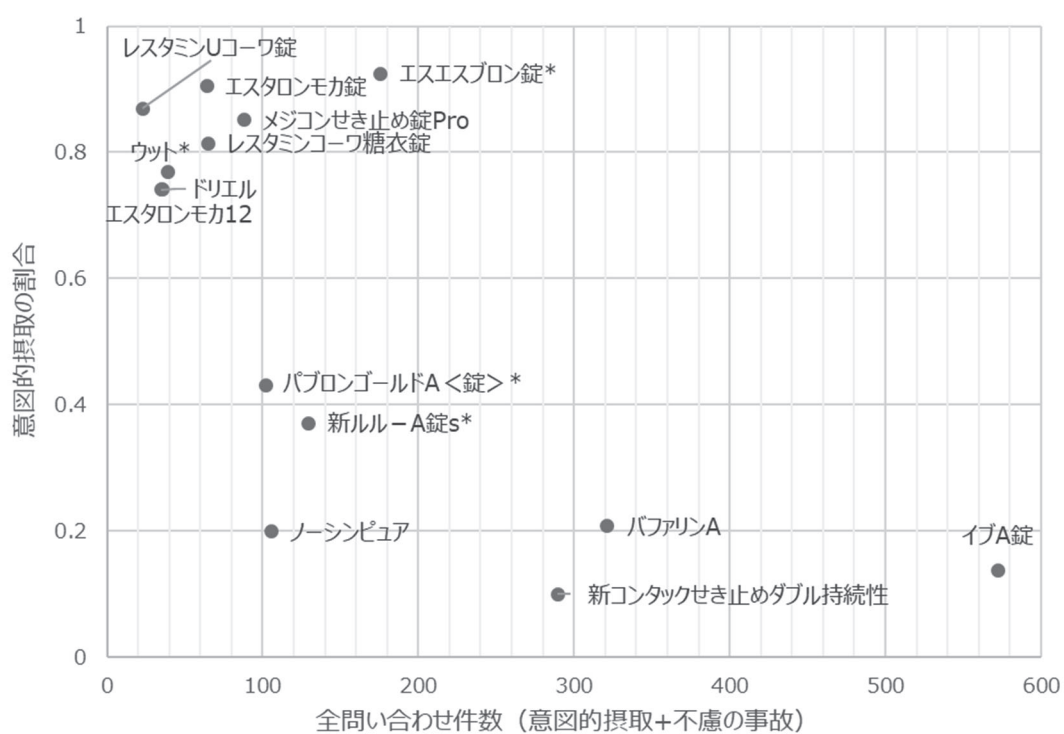


図9-3 問い合わせ件数上位製品 全問い合わせに対する意図的摂取の割合

*濫用等のおそれのある医薬品

(11) 問い合わせ件数上位製品 症状

表 2 に意図的摂取の件数が 20 件以上であった 14 製品について、重篤な症状である昏睡、痙攣、心電図異常(頻脈を除く)の出現件数を示す(多剤摂取例も含む)。プロモバレリル尿素を含有するウットでは昏睡、ジフェンヒドラミンを含有するドリエル、レスタミンコーワ糖衣錠、レスタミン U コーワ錠では昏睡、痙攣、カフェインを含有するエスタロンモカ錠、エスタロンモカ 12 では心電図異常が多かった。

(12) 問い合わせ件数上位製品 摂取箱数

表 3 に意図的摂取の件数が 20 件以上であった 14 製品について、複数箱を摂取した件数を示す。摂取箱数は「摂取量(錠、カプセル)÷ 最大包装単位」で算出し、問い合わせ時点で箱数を聴取している場合は聴取した箱数とした。複数箱を摂取した割合が 50%を超えた製品は、エスタロンモカ錠(74%)、ドリエル(65%)、エスタロンモカ 12(62%)、ウット(53%)であった。

(13) 事例

摂取状況を把握するために事例を提示する。

表 4-1 に過量摂取に関する情報の入手先を聴取した 9 件を示す。9 件中 7 件がインターネット、SNS で情報を入手していた。

表 4-2 にインターネット購入した 8 件および友人より譲渡された 1 件を示す。なお、入手経路を聴取できた例が 121 件あり、うち店頭購入 112 件、インターネット購入 8 件、友人からの譲渡 1 件だった。中学生、高校生がインターネット購入している事例があった。

表 4-3 に小学生が過量摂取した事例を示す。10 歳 3 件、11 歳 8 件、12 歳で小学生と聴取した 1 件の計 12 件あった。購入先は不明だが、自分で購入して摂取した事例もあった。また、学校で摂取した事例が 2 件あった。

4. まとめ

2019 年～2023 年の 5 年間における市販薬の意図的摂取の問い合わせ件数は増加傾向で、患者は女性が多く低年齢化しており、小学生の事例も散見された。日本中毒情報センターへの全問い合わせ件数に対する意図的摂取の割合を指標とした場合、薬効分類別では眠気防止薬、催眠鎮静薬、アレルギー薬、鎮咳去痰薬、製品別では「濫用等のおそれのある医薬品」に指定されているエスエスブロン錠、ウットのほか、エスタロンモカ錠・エスタロンモカ 12(カフェイン含有眠気防止薬)、レスタミンコーワ糖衣錠・レスタミン U コーワ錠(ジフェンヒドラミン含有アレルギー用薬)、ドリエル(ジフェンヒドラミン含有催眠鎮静薬)、メジコンせき止め錠 Pro(デキストロメトルファン含有鎮咳去痰薬)に意図的摂取されやすい傾向が認められた。なかでも 2021 年 8 月に発売されたメジコンせき止め錠 Pro は、2023 年に問い合わせが急増した。市販薬の過量摂取に関する情報の入手先については、インターネットや SNS の情報をみて過量摂取している状況が確認された。

表1 製品別集計

分類	製品名	製造販売会社	薬用等のおそれのある医薬品	鎮静	鎮咳	交感神経刺激	キサンチン	抗ヒスタミン	件数		症状	採取箱数別 件数														年齢層																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
									意図的採取 (件)	不慮の事故 (件)		合計 (件)	意図的採取の割合	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
催眠鎮静薬、プロモハレリル原薬	ウット	伊丹製薬	●	50	83							28	30	9	39	0.77	2	2	0	2	1.00	2	悪心・嘔吐(1)頭痛(1)倦怠感(1)悪寒(1)	悪心・嘔吐(1)意識障害(昏睡以外)(10)昏睡(5)不穏(1)ふらつき(1)脱力・麻痺(1)しびれ(1)記憶障害・健忘症(1)構語障害(1)動悸・頻脈(1)血圧低下(1)血圧上昇(1)発熱(1)散瞳(1)失禁(1)胸部×線異常(1)	12	5	3	1	1	1	1	2	5	11	10	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	奥田脳神経薬	奥田製薬	●		60		30				2	2	悪心・嘔吐(1)頭痛(1)倦怠感(1)悪寒(1)	悪心・嘔吐(1)頭痛(1)倦怠感(1)悪寒(1)	2						1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

表1 製品別集計

[illegible]

表1 製品別集計

[illegible]

表1 製品別集計

[illegible]

表1 製品別集計

[illegible]

表1 製品別集計

[illegible]

表1 製品別集計

分類	製品名	製造販売会社	薬用等のおおそれのある医薬品	鎮静	鎮咳	交感神経刺激	キサンチン	抗ヒスタミン	件数			症状	採取箱数別 件数														年齢層												
									意図的採取(件)	不慮の事故(件)	合計(件)		1箱	2箱	3箱	4箱	5箱	6箱	7箱	8箱	9箱	10箱	11箱	12箱	13箱	14箱	不明	15歳以下	16歳以上	17歳以上	18歳以上								
鼻炎用内服薬(つづき)	コルゲンコーワ鼻炎持続力ブセル	興和	●					ジフェンヒドラミンサルチル酸塩	2	0	2	1.00	2	動悸・頻脈(1) 散腫(1)	2																		2						
	アスザン鼻炎S	アスザン製薬					25	ジフェンヒドラミン塩酸塩	1	3	4	0.25	1		1																				1				
	コンタック600プラス	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン	●				25		1	4	5	0.20			1																				1				
	新アルシン鼻炎カプセル	滋賀県製薬	●				20			1	1	2	0.50	1	意識障害(昏睡以外)(1) 異常行動(1)	1																			1				
	バブロン鼻炎(詳細不明)	大正製薬								1	1																												
鼻炎薬TX	鼻炎薬TX	小林薬品工業	●				25		1	1	2	0.50	1		1																				1				
	フェキソフエナジン錠「STJ」	協和薬品工業							1	3	4	0.25			1																				1				
	ペアコール鼻炎カプセル	佐藤薬品工業	●				30		1	0	1	1.00	1		1																			1					
耳鼻科用薬 計	トラベルミン	エーザイ						40	25	6	39	45	0.13	5	意識障害(昏睡以外)(2) 痙攣(1) 興奮・頻脈(2) 発熱(1) 低血糖(1)	18	23	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	7	0	7	5	2	
	トラベルミン(詳細不明)	エーザイ							2		2			2	随運動(1) 動悸・頻脈(1) 発熱(2) 発汗(1) 失禁(1) 白血球増加(1)																				1	4	1		
乗物酔防止薬	トリバミン錠	杏林製薬					10		2	0	2	1.00	2	意識障害(昏睡以外)(1)		1	1																		1		1		
	センバア・QT	大正製薬							1	13	14	0.07	1																						1				
	トラベルミンR	エーザイ					30		1	10	11	0.09	1	悪心・嘔吐(1) 意識障害(昏睡以外)(1) 幻覚・幻聴(1) 発熱(1)																			1		1				
	バンジロントラベルSP	ロート製薬							1	15	16	0.06	1	意識障害(昏睡以外)(1) 構語障害(1)																				1		1			
	救心	救心製薬							13	1	11	12	0.08	1	悪心・嘔吐(1) 血圧上昇(1)	12		0	2	1	0	1	1	1	1	1	0	0	3	2	0	0	5	5	1				
循環器用薬 貧血用薬 計	ファイチ	小林製薬							2	12	14	0.14	2	意識障害(昏睡以外)(1)		2		1																	0	0	0	2	0
	明治うがい薬	明治							2					2				1																		1			
	含嗽薬								1	1	1	2	0.50					1																	0	0	0	1	0
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠	エスエス製薬	●				7.5		162	13	175	0.93	133	悪心・嘔吐(5) 咳(2) 呼吸困難・呼吸抑制(3) 過呼吸(5) 悪心・嘔吐(50) 口腔咽頭違和感・痛み(1) 腹痛(3) 下痢(1) 食欲不振(1) 口渇(3) 頭痛(5) めまい(4) 意識障害(昏睡以外)(32) 昏睡(1) 痙攣(2) 興奮(3) 不穏(1) 錯乱(1) 多幸感(1) ふらつき(10) 脱力・麻痺(5) 不随運動(7) しびれ(1) 幻覚・幻聴(3) 記憶障害・健忘(1) 構語障害(1) 感覚障害・感覚異常(1) 動悸・頻脈(28) 不整脈・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱(8) 倦怠感(4) 眩暈(2) 投薬異常・服薬の異常(3) 顔面潮紅(1) 発汗・心電図異常(2) 血圧上昇(6) 皮膚症状(2) 発熱																									

表1 製品別集計

[illegible]

表1 製品別集計

[illegible]

表1 製品別集計

[illegible]

表 2 問い合わせ件数上位製品 昏睡・痙攣・心電図異常の出現件数

薬効	製品名	主な成分	件数	昏睡あり	痙攣あり	心電図異常あり**
催眠鎮静薬	ウット*	プロモベレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、ジブフェヒ ドランミン塩酸塩	30	5 (17%)	0 (0%)	0 (0%)
	ドリエル	ジブフェヒドランミン塩酸塩	26	2 (8%)	4 (15%)	1 (4%)
解熱鎮痛薬	バファリンA	アスピリン	67	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)
	イブA錠	イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素、無水カフェイン	79	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)
	ノーシンピュア	イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素、無水カフェイン	21	1 (5%)	0 (0%)	1 (5%)
	エスタロンモカ錠	無水カフェイン	58	1 (2%)	3 (5%)	4 (7%)
眠気防止薬	エスタロンモカ12	無水カフェイン	26	2 (8%)	1 (4%)	1 (4%)
	新ルレーA錠s*	アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン 塩酸塩、クレマスチンフマル酸塩、無水カフェイン	48	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)
かぜ薬	パブロンゴールドA<錠>*	アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン 塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン	44	0 (0%)	2 (5%)	0 (0%)
	エスエスブロン錠*	ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェ ニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン	162	1 (1%)	2 (1%)	2 (1%)
鎮咳去痰薬	メジコンせき止め錠Pro	デキストロトルファン臭化水素酸塩水和物	75	5 (7%)	3 (4%)	1 (1%)
	新コンタックせき止めダブL持続性	デキストロトルファン臭化水素酸塩水和物、ジブプロフィリン	29	3 (10%)	0 (0%)	1 (3%)
アレルギー用薬	レスタミンコーワ糖衣錠	ジブフェヒドランミン塩酸塩	53	0 (0%)	7 (13%)	1 (2%)
	レスタミンUコーワ錠	ジブフェヒドランミン塩酸塩	20	3 (15%)	2 (10%)	0 (0%)

* 濫用等のおそれのある医薬品

**頻脈を除く

表3 問い合わせ件数上位製品 複数箱を撰取した件数

薬効	製品名	主な成分	包装単位	件数	複数箱撰取した件数
催眠鎮静薬	ウット*	プロモバレルル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、ジフェンヒド ラミン塩酸塩	9錠, 12錠	30	16 (53%)
	ドリエル	ジフェンヒドラミン 塩酸塩	6錠, 12錠	26	17 (65%)
	バファリンA	アスピリン	10錠, 20錠, 40錠, 60錠, 80錠	67	10 (15%)
解熱鎮痛薬	イブA錠	イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素、無水カフェイン	24錠, 36錠, 48錠, 60錠	79	8 (10%)
	ノーシンピュア	イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素、無水カフェイン	16錠, 24錠, 36錠, 48錠, 84錠	21	1 (5%)
	エスタロンモカ錠	無水カフェイン	24錠	58	43 (74%)
かぜ薬	エスタロンモカ12	無水カフェイン	20錠	26	16 (62%)
	新ルレーA錠s*	アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン 塩酸塩、クレマスチンフマル酸塩、無水カフェイン	50錠, 100錠, 150錠	48	4 (8%)
	パブロンゴールドA<錠>*	アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン 塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン	130錠, 210錠	44	1 (2%)
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン 塩酸塩、クロルフェ ニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン	60錠, 84錠	162	38 (23%)
	メジコンせき止め錠Pro	デキストロトルファン 臭化水素酸塩水和物	20錠, 40錠	75	31 (41%)
	新コンタックせき止めダブル持続性	デキストロトルファン 臭化水素酸塩水和物、ジプロピリン	12カプセル, 24カプセル	29	5 (17%)
アレルギー用薬	レスタミンコーワ糖衣錠	ジフェンヒドラミン 塩酸塩	80錠, 120錠	53	10 (19%)
	レスタミンUコーワ錠	ジフェンヒドラミン 塩酸塩	75錠, 120錠	20	7 (35%)

* 濫用等のおそれのある医薬品

表 4-1 過量摂取に関する情報の入手先を聴取した事例

薬効分類	製品名	年齢	摂取量	状況
解熱鎮痛薬	ラックル速溶錠	35 歳	28 錠	これまでは処方薬を過量摂取していたが、今回はインターネットでアセトアミノフェンで死ぬことができるとの情報を見て、インターネットで購入して摂取した。
眠気防止薬	エスタロンモカ 12	14 歳	14 錠	インターネットで情報を得て、自殺企図で眠気防止剤を摂取した。
かぜ薬	パブロンゴールド A<錠>	18 歳	15 錠	知人から教えてもらい市販のかぜ薬を時々過量摂取している。
	パブロンゴールド A<錠>	18 歳	120 錠	Twitter の情報をまねして、初めてかぜ薬を大量摂取した。
	パブロン (詳細不明)	20 歳	6 包	SNS で多幸感などが得られることを知り、興味本位で薬を過量摂取した。
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠	12 歳	84 錠	SNS でこの薬を飲むと自殺できるとの情報を得て、自分で購入して摂取した。
	エスエスブロン錠	17 歳	50 錠	インターネットで見て市販の咳止めの錠剤を知り、薬局で買って一度に飲んだ。
	エスエスブロン錠	不明	60 錠	ブロン錠の OD についてインターネットで見初めて試してみた。
	メジコンせき止め錠 Pro	20 歳	70 錠	施設の入所者が外出先で購入した咳止め薬を摂取した。入所者の間で、商品の摂取により多幸感が得られるとのうわさがあったため自分も買って飲んでみた。

表 4-2 インターネット購入または友人より譲渡された事例

薬効分類	製品名	年齢	摂取量	状況
解熱鎮痛薬	小中学生用ノージンピュア	13 歳	36 錠	中学生がインターネットで購入した市販薬を自宅で過量摂取し、学校で症状が出現した。
	ラックル速溶錠	35 歳	28 錠	これまでは処方薬を過量摂取していたが、今回はインターネットでアセトアミノフェンで死ぬことができるとの情報を見て、インターネットで購入して摂取した。
かぜ薬	ロキソニン S プレミアム	15 歳	24 錠	インターネットで購入した解熱鎮痛薬 2 種類を飲んだ。
	バラローンかぜ EX ゴールド	24 歳	120 錠	インターネットで買った薬を 2 種類過量摂取した。120 錠入り、150 錠入りのびんが空になっていた。
乗物酔防止薬	トラバールミン (詳細不明)	29 歳	29 錠	インターネットで購入した乗物酔防止薬を摂取した。
鎮咳去痰薬	メジコンせき止め錠 Pro	14 歳	104 錠	友人から譲り受けた咳止め薬を、興味を持って 4 日間の間に合計 104 錠摂取した。
		17 歳	40 錠	高校生がインターネットで購入した咳止め薬を過量摂取した。
		18 歳	125 錠	インターネットで購入した咳止め薬を自殺企図で摂取した。
アレルギー用薬	商品名不明	17 歳	480 錠	インターネットで購入したアレルギー用薬のボトル 3～4 本を飲んだ。

表 4-3 小学生が過量摂取した事例

薬効分類	製品名	年齢	摂取量	状況
解熱鎮痛薬	バファリンブプレミアム DX	11 歳	66 錠	自分で購入した解熱鎮痛薬を摂取した。以前から希死念慮があった。
	バファリン A	11 歳	80 錠	市販の鎮痛剤を意図的摂取した。
	メロドン EV 錠	11 歳	10 錠	修学旅行中にホテルで市販薬を過量摂取した。
かぜ薬	バブロンゴールド A<錠>	10 歳	72 錠	市販薬を故意に飲んだ。
	新ルルー A 錠 s	12 歳	73 錠	小学校で市販のかぜ薬を意図的に摂取した。
	エスタック総合感冒	11 歳	20 錠	市販のかぜ薬を過量摂取した。嫌なことがあって飲んだようだ。
	バブロン Sα<錠>	11 歳	34 錠	学校の休み時間にかぜ薬を故意に摂取した。
	新ルルー A ゴールド DXα	11 歳	30 錠	意図的に薬を過量摂取した。「SNS に自殺するとあった」と知人から親に連絡があった。
	エスタックイブ	11 歳	30 錠	かぜ薬を意図的摂取した。
	マジコンせき止め錠 Pro	11 歳	30 錠	市販薬を 3 シート分飲んだ。
鎮咳去痰薬	エムケル (詳細不明)	10 歳	14 錠	ビタミン剤を意図的に摂取し家族には言わずに登校し、学校の先生に打ち明けた。
漢方製剤	「クラシエ」漢方抑肝散加芍薬黄連錠	10 歳	10 錠	イライラして市販の漢方製剤を過量摂取した。

令和6年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
濫用等のおそれのある医薬品の成分指定に係る研究24KC2005

市販薬の意図的摂取に関する問い合わせ の集計及び解析業務

公益財団法人日本中毒情報センター
三瀬雅史

目的・対象

目的

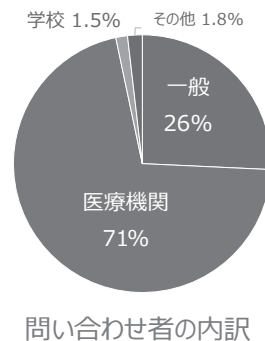
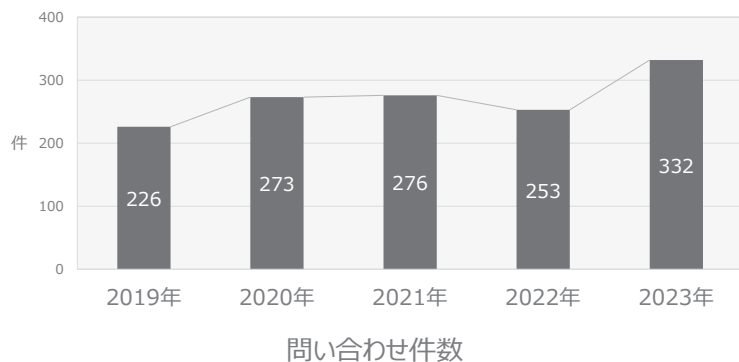
日本中毒情報センターに問い合わせのあった市販薬の意図的摂取の事故を集計・解析することにより、市販薬の意図的摂取の事故発生状況を明らかにする。

対象

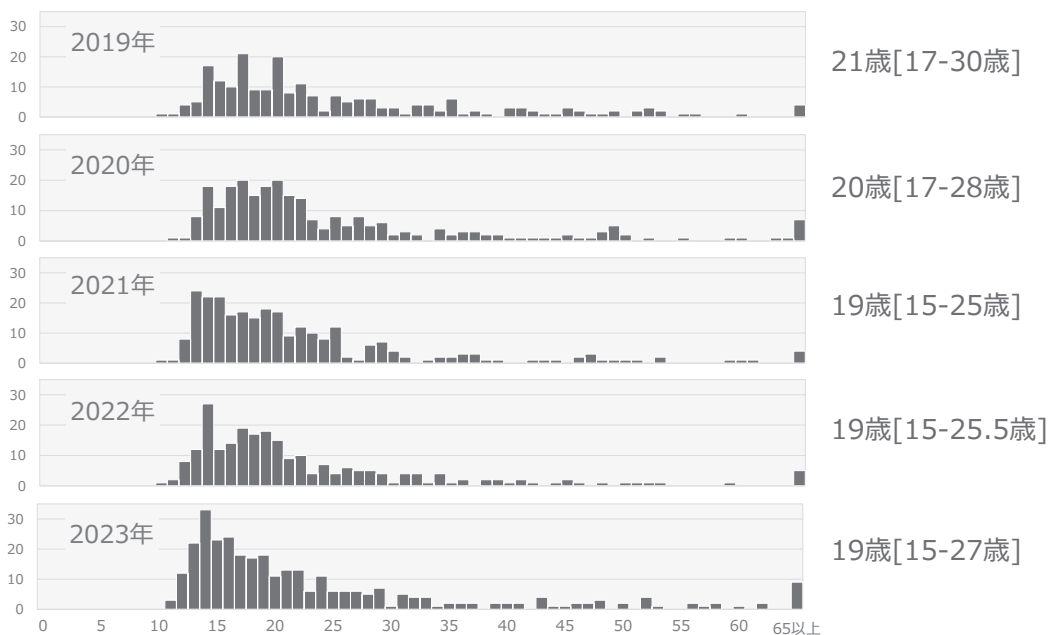
2019年～2023年の5年間に日本中毒情報センター・中毒110番電話相談に問い合わせのあった市販薬の意図的摂取事例1,360件を対象とした。

なお、「自殺企図・自傷行為」「乱用」「詳細は不明だが意図的摂取」と聴取した事例を「意図的摂取」とした。

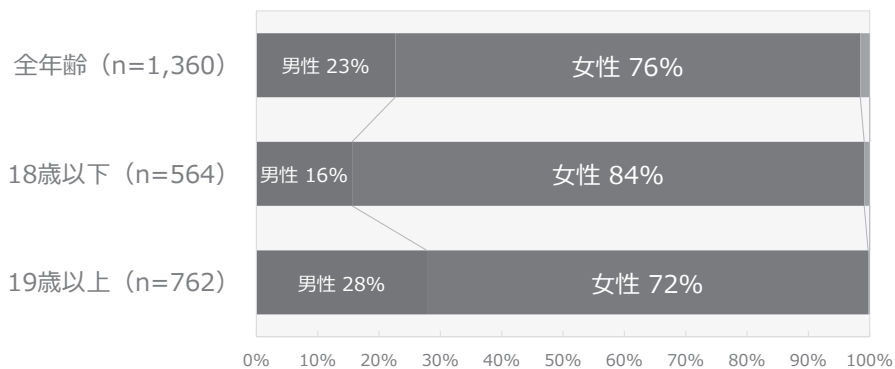
問い合わせ件数・問い合わせ者



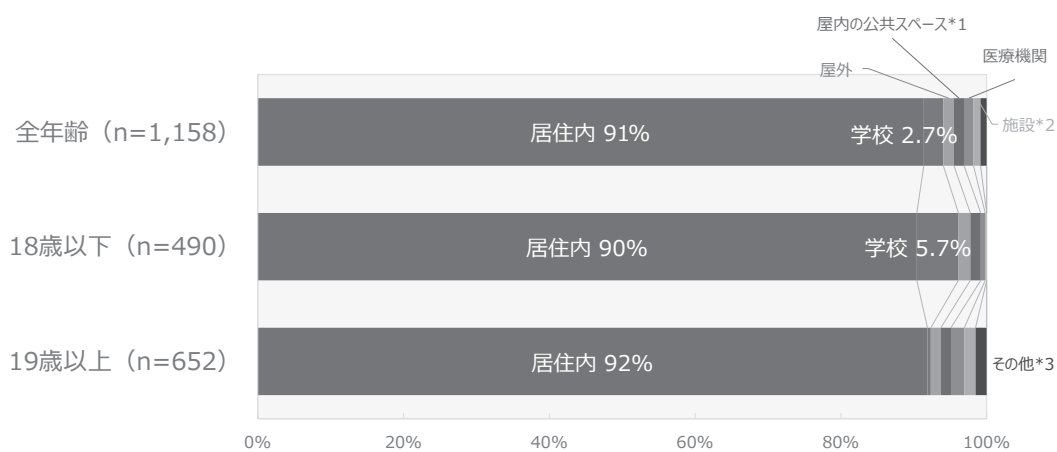
患者年齢



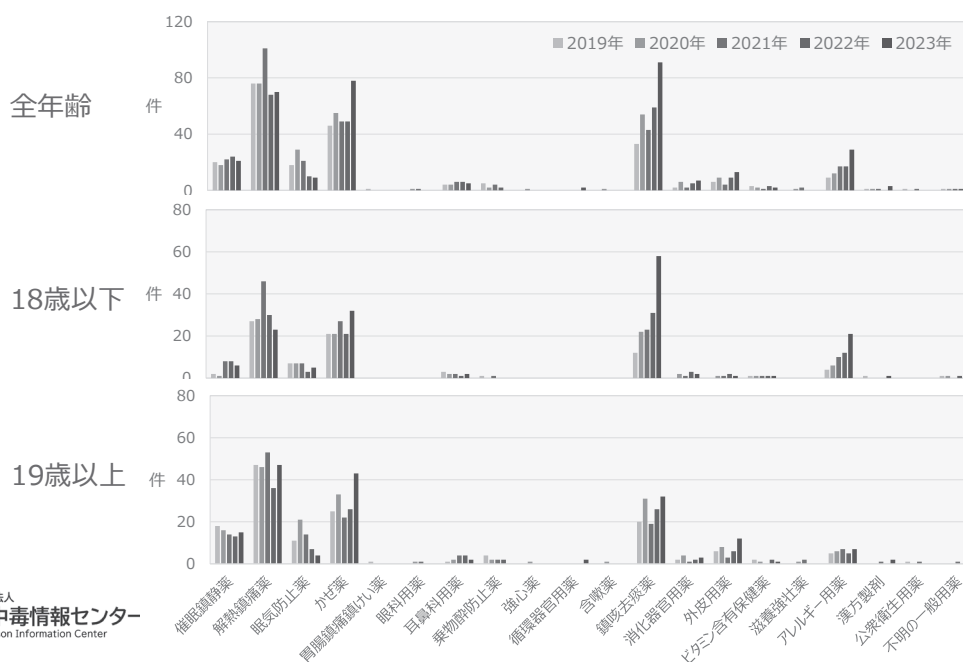
性別



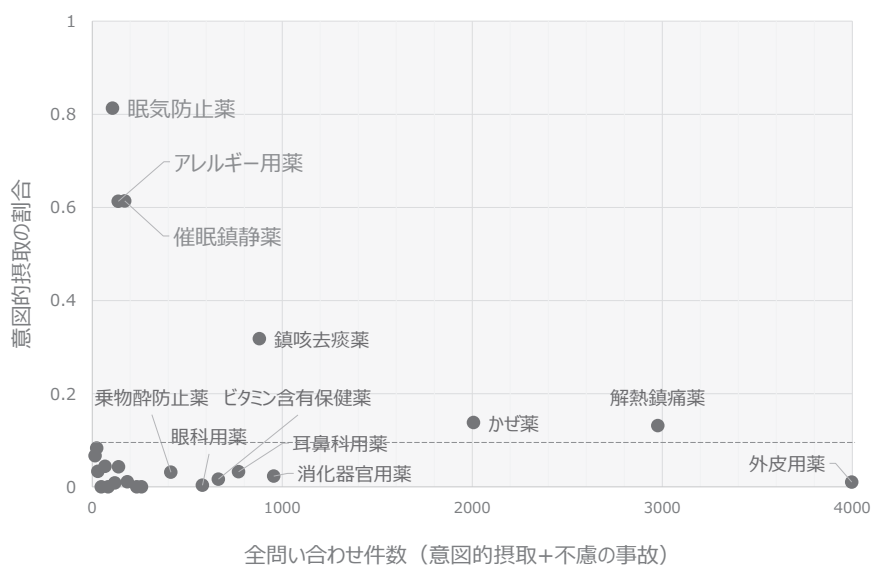
発生場所



薬効分類別 問い合わせ件数



薬効分類別 全問い合わせに対する意図的摂取の割合



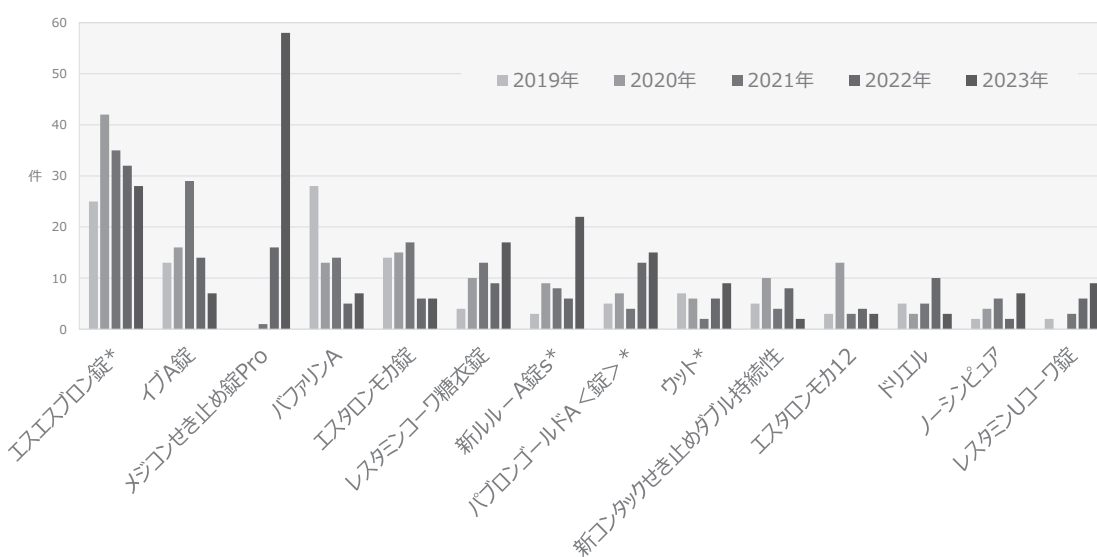
問い合わせ件数上位製品

商品名（薬効分類）	主な成分	件数
エスエスプロン錠（鎮咳去痰薬）*	ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン	162件
イブA錠（解熱鎮痛薬）	イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素、無水カフェイン	79件
メジコンせき止め錠Pro（鎮咳去痰薬）	デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	75件
パファリンA（解熱鎮痛薬）	アスピリン	67件
エスタロンモカ錠（眠気防止薬）	無水カフェイン	58件
レスタミンコーワ糖衣錠（アレルギー用薬）	ジフェンヒドラミン塩酸塩	53件
新ルルーA錠s（かぜ薬）*	アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クレマスチンフマル酸塩、無水カフェイン	48件
パブロンゴールドA<錠>（かぜ薬）*	アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン	44件
ウット（催眠鎮静薬）*	プロモバレルリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、ジフェンヒドラミン塩酸塩	30件
新コンタックせき止めダブル持続性（鎮咳去痰薬）	デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物、シプロフィリン	29件
エスタロンモカ12（眠気防止薬）	無水カフェイン	26件
ドリエル（催眠鎮静薬）	ジフェンヒドラミン塩酸塩	26件
ノーシンプュア（解熱鎮痛薬）	イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素、無水カフェイン	21件
レスタミンUコーワ錠（アレルギー用薬）	ジフェンヒドラミン塩酸塩	20件

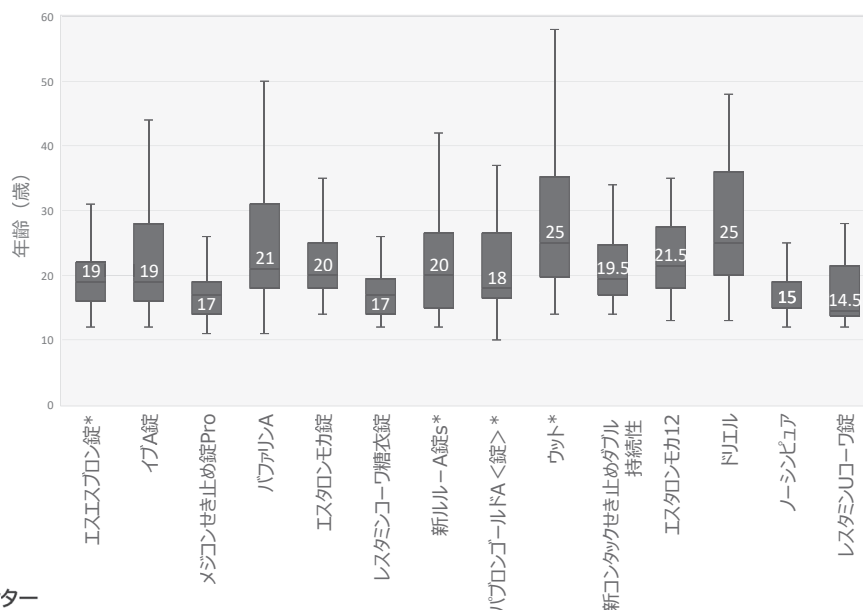
*濫用等のおそれのある医薬品

9

問い合わせ件数上位製品 年次推移



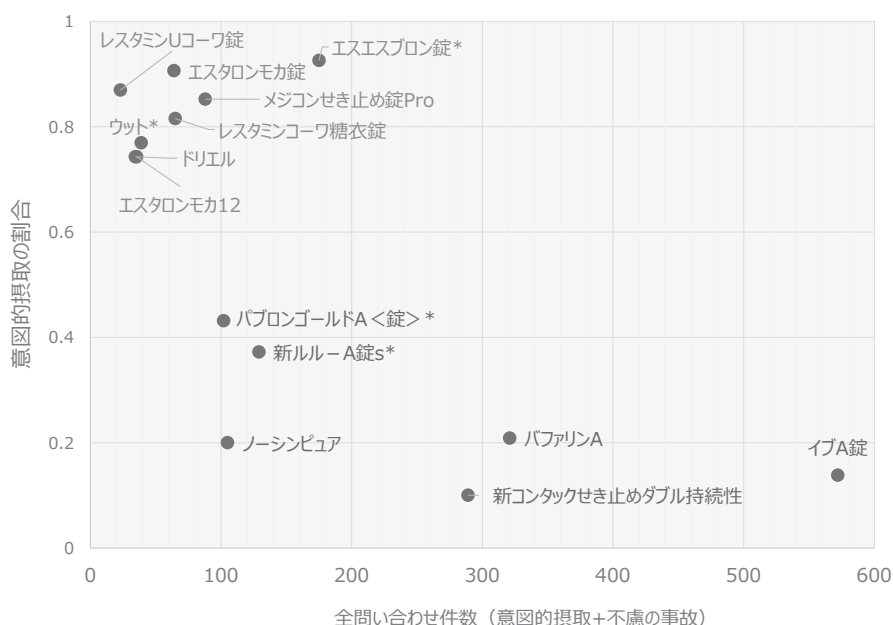
問い合わせ件数上位製品 患者年齢



問い合わせ件数上位製品 昏睡・痙攣・心電図異常の出現件数

薬効	製品名	主な成分	件数	昏睡あり	痙攣あり	心電図異常あり**
催眠鎮静薬	ウット*	プロモバレルリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、ジフェンヒドラミン塩酸塩	30	5 (17%)	0 (0%)	0 (0%)
	ドリエル	ジフェンヒドラミン塩酸塩	26	2 (8%)	4 (15%)	1 (4%)
解熱鎮痛薬	パファリンA	アスピリン	67	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)
	イブA錠	イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素、無水カフェイン	79	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)
	ノーシンピュア	イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素、無水カフェイン	21	1 (5%)	0 (0%)	1 (5%)
眠気防止薬	エスタロンモカ錠	無水カフェイン	58	1 (2%)	3 (5%)	4 (7%)
	エスタロンモカ12	無水カフェイン	26	2 (8%)	1 (4%)	1 (4%)
かぜ薬	新ルルレーA錠S*	アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クレマスチンフマル酸塩、無水カフェイン	48	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)
	パブロンゴールドA<錠>*	アセトアミノフェン、ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン	44	0 (0%)	2 (5%)	0 (0%)
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩、無水カフェイン	162	1 (1%)	2 (1%)	2 (1%)
	メジコンせき止め錠Pro	デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	75	5 (7%)	3 (4%)	1 (1%)
	新コンタックせき止めダブル持続性	デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物、ジプロフィリン	29	3 (10%)	0 (0%)	1 (3%)
アレルギー用薬	レスタミンコーワ糖衣錠	ジフェンヒドラミン塩酸塩	53	0 (0%)	7 (13%)	1 (2%)
	レスタミンUコーワ錠	ジフェンヒドラミン塩酸塩	20	3 (15%)	2 (10%)	0 (0%)

問い合わせ件数上位製品 意図的摂取の割合



過量摂取に関する情報の入手先を聴取した事例9例

薬効分類	製品名	年齢	摂取量	状況
解熱鎮痛薬	ラックル速溶錠	35歳	28錠	これまでは処方薬を過量摂取していたが、今回はインターネットでアセトアミノフェンで死ぬことができるの情報を得て、インターネットで購入して摂取した。
眠気防止薬	エストロンモカ12	14歳	14錠	インターネットで情報を得て、自殺企図で眠気防止剤を摂取した。
かぜ薬	パブロンゴールドA<錠>	18歳	15錠	知人から教えてもらい市販のかぜ薬を時々過量摂取している。
	パブロンゴールドA<錠>	18歳	120錠	Twitterの情報をまねて、初めてかぜ薬を大量摂取した。
	パブロン（詳細不明）	20歳	6包	SNSで多幸感などが得られることを知り、興味本位で薬を過量摂取した。
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠	12歳	84錠	SNSでこの薬を飲むと自殺できるとの情報を得て、自分で購入して摂取した。
	エスエスブロン錠	17歳	50錠	インターネットで見て市販の咳止めの錠剤を知り、薬局で買って一度に飲んだ。
	エスエスブロン錠	不明	60錠	ブロン錠のODについてインターネットで見て初めて試してみた。
	メジコンせき止め錠Pro	20歳	70錠	施設の入所者が外出先で購入した咳止め薬を摂取した。入所者の間で、商品の摂取により多幸感が得られるとのうわさがあったため自分も買って飲んでみた。

まとめ

- 2019年～2023年の5年間における市販薬の意図的摂取の問い合わせ件数は増加傾向で、患者は女性が多く低年齢化しており、小学生の事例も散見された。
- 製品別では、2021年8月に発売されたメジコンせき止め錠Proが2023年に問い合わせが急増した。
- 日本中毒情報センターへの全問い合わせ件数に対する意図的摂取の割合を指標とした場合、「濫用等のおそれのある医薬品」に指定されているエスエスブロン錠、ウツトのほか、エスタロンモカ錠・エスタロンモカ12、レスタミンコーワ糖衣錠・レスタミンUコーワ錠、ドリエル、メジコンせき止め錠Proに意図的摂取されやすい傾向が認められた。
- 市販薬の過量摂取に関する情報の入手先については、インターネットやSNSの情報をみて過量摂取している状況が確認された。